備忘抄

下

1B
775
100

4 僧
775
100

備忘抄巻之下

群書一覧

撰集類

萬葉集

普通の次第は四十六代孝謙天皇の御宇に左大臣橘諸兄勅を奉りて撰び書いまだ成ずして薨ぜしかば甚だ五十二代平城帝の御宇に撰集成りこれ以前すべて集中皆諸兄薨ぜしまでの歌と見えたり故に大体家持のくだりまでのことと云々。以下諸説々畧之

二十巻　仙覚律師

一名萬葉集註釋　一名仙覚抄　巻首に撰者何代等のこと以論じ本文注の中所々古点の誤を改め新点を付けり巻末の奥書に宝永何年の巻尾に写すところの畧

中村直道抄録

詞林采葉 写本　十巻 五本　栗門由河

古今八行のそうけつをあつめ二万葉集の中より名歌詞抜きうつし
諸子巻末こと集書様時代探者點和名のまとをうつり 以下巻

萬葉集宗祇抄 写本　五巻
萬葉集管見 写本　二巻
萬葉集見安　二巻
萬葉拾穗抄　三十巻
萬葉代匠記 写本　二十二巻
萬葉集童蒙抄 写本　八十巻
萬葉集考 第一第二引記　三巻
同 第三第四第五第六 写本　四巻
萬葉選要抄　二十巻 九本

北村季吟
笑沖阿闍梨
荷田春満
賀茂真淵
俊道惠苏

萬葉集旁注　二十巻　同上
萬葉考槻の落葉　三巻　宇治五十槻
萬葉集略解　七巻　橘千蔭
萬葉新採百首解 写本　三巻　賀茂真淵
萬葉集玉の小琴 写本　一巻　本居宣長
萬葉類葉抄補闕 写本　十五巻
古葉畧類聚抄 写本　五巻
萬葉緯 写本　二十巻　今井似閑
萬葉集長歌短歌説 写本　一巻　藤原定家卿
萬葉集名寄　五巻　下河邊長流
萬葉集千歌 写本　一巻　擇取魚彦
萬葉集淺茅原 写本　二巻　澤真風

萬葉集佳調　二巻一本　長瀬真幸
萬葉集佳調拾遺　一巻　同上
撰集萬葉徴　写本　四巻　田中道麻呂
萬葉東語綮　写本　一巻　同上
萬葉集荅問書　写本　二巻　同上
萬葉集作者傳歷　写本　五巻
新撰萬葉集　二巻　菅原道真公
　此書下巻の絶句韻字あるごとく上巻よりおのおの一人の作を抜き一味ずつ若干の次第をもってくるものなり
三代集　古今　後撰　拾遺　六巻
八代集　古今　後撰　拾遺　拾玉　金葉　詞花　千載　新古今　十六巻
二四代集　舊名八代抄　廿巻
八代集抄　百八巻　五十本　北村季吟

九代抄　一巻
九六新註　五十巻
十三代集　二十一代集　三十巻　二本
古今和歌集　五十六巻
古今和歌集鈔　二十巻　二本
古今栄雅抄　六巻
古今序註　二十巻　十六本
古今集傳授　十巻　五本
古今餘材抄　写本　一巻
古今和歌集打聽　三十巻
古今通　写本　二十巻　十本

一巻　五本　宗祇法師
十代集抄　一巻
二十代集抄　一巻
二十一代集分類　五十巻
顕註密勘　八巻
古今和歌集深秘抄　六巻
古今抄延五記　二十一巻　尭恵法師
了嚮上人
今川了俊
契冲阿闍梨
　此六部の抄ども一本の注ゆえに部類するなり　契沖の服部抄と称するもこれなり
五井純祺

古今集真名序解　四巻　菊池春林
古今和歌集鄙言（ヒラトバ）　六巻　尾崎雅嘉
古今和歌集両序鄙言　二巻　同上
古今集遠鏡　六巻　本居宣長
後撰和歌集　二十巻二本
後撰撰抄　一巻
後拾遺和歌集　二十巻二本　拾遺抄　二巻
金葉和歌集　三巻　藤原定家
詞花和歌集　二十巻二本
千載和歌集　十巻一本
　　十巻一本
　　二十巻二本

新古今和歌集　二十巻四本
新古今和歌集抄　四巻　平常縁
新古今増抄　二十巻　加藤磐斎
新古今集美濃家裂（ツト）折添　五巻　本居宣長
美濃家裂折添　三巻　同上
新勅撰和歌集　二十巻二本
新勅撰抄　字本　二十巻　沙門光真
新勅撰集抄　字本　一名難勅宣　又新勅撰難注　三巻　沙門契沖
新勅撰和歌集抄　八巻　沙門祖能
続後撰和歌集　二十巻四本
続古今和歌集　二十巻三本
続拾遺和歌集　二十巻二本

新後撰和歌集　二十巻　三本
玉葉和歌集　二十巻　四本
續千載和歌集　二十巻　四本
續後拾遺和歌集　二十巻　二本
風雅和歌集　二十巻　四本
新千載和歌集　二十巻　四本
新拾遺和歌集　二十巻　四本
新後拾遺和歌集　二十巻　二本
新續古今和歌集　二十巻　四本
續古今玉葉風雅抜書　三巻
新葉和歌集　二十巻　四本

右天保甲午年正月九日抄出

中村直道

私撰類

新撰和歌集　四巻　紀貫之
續詞花和歌集　二十巻　二本　藤原清輔
雲葉和歌集　十巻　二本
金玉集　一巻　大納言公任
玄々集　一巻　能因法師
玄玉和歌集　七巻　一本
今撰和歌集　一巻
柳風和歌抄　一巻
夫木和歌抄　三十六巻　藤原長清
夫木集類句　三十巻
夫木集抜書　二巻
十二巻　四本　小幡正信
歌林拾葉集

○此五字和刻ニテ別ニ
記ス今ノ一冊ハ抜書ノ
抜書ナリ

藤葉和歌集 写本 六巻 一本
新撰六帖 五巻 柚中和歌六帖 十八巻 四本
材林和歌集 写本 五巻 風葉和歌集 写本
伯母集 写本 二巻 温知和歌集 写本 一巻 小澤蘆菴
林葉累塵集 十巻 五本 下河邊長流

甲午正月九日 中村直道抄録

家集類

歌仙家集 十五巻
躬恒集 一巻
猿丸集 一巻
業平集 一巻
敦忠集 一巻
齋宮集 一巻
柿本集 二巻
素性集 一巻
家持集 一巻
兼輔集 一巻
公忠集 一巻
宗于集 一巻
清正集 一巻
是則集 一巻
敏行集 一巻
兼盛集 一巻
伊勢集 一巻
遍昭集 一巻
元輔集 一巻
高光集 一巻
小町集 一巻
頼基集 一巻
信明集 一巻
仲文集 一巻
興風集 一巻
小大君集 一巻
能宣集 一巻
賀之集 二巻
赤人集 一巻
源順集 一巻
朝忠集 一巻
友則集 一巻
忠岑集 一巻
重之集 一巻
元真集 一巻
忠見集 一巻

中務集　一巻

三十六人歌仙歌集并雑抄

菅家御集　写本　一巻

写本ニ在ル所ノ紙数ヲ記シテ曰ク、此ノ集ハ菅公ノ詠草ニシテ、自筆ノ書ヲ以テ書写セシモノト云フ。今ヲ以テ考フルニ、一冊ノ内ニ、ソノ書体ノ異ナルアリ。以下略

元良親王御集　写本　一巻

大江千里集　写本　一巻

康資王母集　写本　一巻　一名伯母集

前大納言公任卿集　写本　一巻

経信卿母集　写本　一巻

曽根好忠家集　一巻

已上三十六人歌仙家集ナリ　三巻

菅家御遺誡　菅公遺誡ノ抄録ニシテ、自筆ノ書ヲ以テ書写セシモノト云フ。今ヲ以テ考フルニ、一冊ノ内ニ、ソノ書体ノ異ナルアリ。以下略

西宮左大臣集　写本　一巻

伊勢大輔集　写本　一巻

祐子内親王家紀伊集　写本　一巻

加茂保憲女集　写本　一巻

赤染衛門家集　四巻

紫式部家集　一巻

六家集　十八巻

殿の月清集　慈鎮和尚の拾玉集　西行法師の山家集　定家卿の拾遺愚草　同員外　家隆卿の壬二集　以上六人の家集ナリ

長秋詠藻　二巻　俊成卿の長秋詠藻　後京極

拾玉集　七巻　慈鎮和尚の家集ナリ

異本拾玉集　写本　三巻

異本山家集　写本　二巻　西行法師の家集ナリ

拾遺愚草　三巻　一巻　京極中納言定家卿の家集ナリ

同員外　一巻　京極権大納言家隆卿の家集ナリ

壬二集　三巻

為家集　七巻

明日香井集　写本　二巻　檜垣嫗家集　写本　一巻

雅為井集トアルハ雅親卿ノ亜槐集ナリ　参議雅経卿ノ集ナリ　判ハヨ　以下略

俊成卿女集 写本 一巻

藤原俊成の家集也 四季恋雑をわかち 奥に譲りの文あり 写略

散木奇歌集 写本 十巻 二本

林葉和歌集 写本 二巻

俊恵法師の家の集なり 住所を

歌林苑と号して毎月会を催しけるとなん されば此集をも林葉と

なづけしなるべしといへり 寿永 花車 清輔 登蓮法師など人々の会

にてよまれたるうたども多し 又編みする歌の会はよりて

金槐和歌集 一巻

鎌倉右大臣実朝公の家集なり 四季恋雑にわかてり 奥書に云 最初

部類あるにもあらず 不審の事あるによりてこれを改むと云 実朝公ハ定家卿の

門人にして 若年并相公羽林 因大臣 鎌倉右大臣と云人 殊なる中にも

殊に上手のよしいへり 古風をのぞみ 百家称のうちに写し ○

定家卿之撰の右府ハたけあるうたをよみたまふところあはれなれば 伝へる歌は

所ハそのうちえらびぬといふ ○賀茂真淵云 此公の家集ハ始めよりえらびすて

よみの歌意考にもいへるがごとく 萬葉のこゝろをまなびて 又此集の

所より後の人の後にゆがめられしにや詞 されば前にあるも此集なりけるを編

古今集をあげつらひ ○おほかたの事ハ鎌倉の大臣の歌ハ今の京

このみならぬ一人なりける歌ハおほかたまなびしかど なほ古今歌集の言葉

まじはりしを ひとへに似つかずさへゆたかにつけるなかの心もしらず人も

すぐれたるうたを中世よりもてはやされるのに此歌ハ古へを

よくふかきものなり 古への世にすぐれたる姿あるさまなりといふ

ことをたくみにいひて 此の歌のよしあしもありていへるものゝ梅の歌

何ゝのさまの歌にてよろしけれど 此の山吹の花古へのうたのいひなし

くれわのはじめよりもちひしたるものの人にてさへよ 又梅開(まてまつり)敵雨

てふ題にて よみや古への梅の花をさかりもたてくはしからずとせし

[illegible]

登蓮法師集 写本 一巻

頼政家集 一巻

長明家集 一巻

忠度家集 かくの如き前へ取替すべし 一巻

寂蓮法師家集 一巻

右京大夫家集 二巻

後鳥羽院御集 一巻 三本

土御門院御集 写本 一巻

樹為仲朝臣集 写本 一巻

瓊玉和歌集 写本 十巻 一本

隣女集 写本 六巻

國基集 写本 一巻

海人手子良 一巻

安法法師集 写本 一巻

孝義和歌集 写本 三巻

右四季恋雑ところどころ文章ありふるき歌ども多きもの軍ありて一時の口承ならん此集中の文拾遺抄集ども抄出書き

兼好法師家集 一巻

順徳院御集 三巻

讃岐入道集 写本 右京亮源親行の集なり 一巻

篠原の家の歌ども抄出せり

飛鳥井雅有卿の家の集なり

津守国基の集なり

多くは私家集なり仮名序書けり

悪慶法印何代の人とも知れず物芸のうまれり

南朝の中務卿宗良親王の抄集

慶運法印集（写本）　一巻
續草菴和歌集　二巻
（集二條家の風にして近體の歌体なるもの多くてあうぶつゝしみ古人の法ども二もりぐく挙ていとまあらず追集の次第そハ鳥丸光雄卿の最も一部とりさためく乙ものゝ草菴集
雪玉集又柏玉集とく（以下略）
草菴集蒙求諺解　二十巻　梅月堂宣阿
○聴玉集ともに（烏丸光栄卿）梅月堂草庵集諺解ともに作者の門人集うぐひすなりく著の注釈なり
いづれとも作者そハ
まだしりふくはなれぬ事ともおほかるを五位そも
白ゝをもてる玉きゝともはもてもてる兎一ゝ梅といふさそ見もてとも
きものなりて法とうふしそ
くく

草菴集難注　二巻　櫻井元茂
草菴集玉箒　九巻（五本）　本居宣長
續草菴集玉箒　一巻　同上
此書ハ草菴集全部のうちそ宣阿の法解元茂の誹諧なるを論ひ
その解ぐしう或ハ頓阿のよふ法師の家集なり
草根集（写本）　十五巻（三本）
草根集寄書（ヨセガキ）（写本）　十巻
（此ハ井生明て雅親卿法名宗雅の歌の集なり以下同）
西梶和歌集　三巻
三玉集　三十四巻
雪玉集　（冷泉政為卿の雪集ヨリ三部を合せく三玉集とうふ）
柏玉集　十巻
雪玉集　十八巻
草菴和歌集　四巻
頓阿法師の家集なり
（集二條家の風にして近體の歌体なるもの多くてあうぶつゝしみ古人の法ども二もりぐく挙ていとまあらず追集の次第そハ
烏丸光雄卿の最も一部とりさためく乙ものゝ草菴集
雪玉集又柏玉集とく（以下略）
草菴集蒙求諺解　二十巻　梅月堂宣阿
○聴玉集ともに（烏丸光栄卿）梅月堂草庵集諺解ともに作者の門人集うぐひすなりく著の注釈なり
いづれとも作者そハ
まだしりふくはなれぬ事ともおほかるを五位そも
白ゝをもてる玉きゝともはもてもてる兎一ゝ梅といふさそ見もてとも
きものなりて法とうふしそ
くく

碧玉集　六巻

大納言為兼卿の家の集ども部立あり　以下略

三玉集　二十巻五本

秋篠月清集　二巻

秋篠院公條公集　写本　一巻

土御門院宸翰公集　一巻

光孝法印集　写本　一巻

常縁集　一巻

宗祇集　一巻

大田垣左京大夫源持資、後備中守入道と法名静勝軒と号すの称号

竹葉瑣談と名づく　千首ありの百首を抜き出したるものなり

慈照院義政公集　写本　一巻

下冷泉家の祖大納言為相卿の孫にあたる

野村尚房

実隆公の息女、後に法名仏覚の家集なり

公條公の息内大臣実澄公法名尊空の家集なり

源孝範集　写本　一巻

東左近大夫下野守平常縁の家集なり

慕景集　写本　一巻

常徳院義尚公集　写本　一巻

沙玉和歌集　写本　一巻

紅塵灰集　写本　一巻

桂林集　写本　一巻

櫻井基佐集　写本　二巻

春夢草　三巻一本

久我家の庶流にて桃乃園池園と号す　以下准之

雪草　写本　一巻

濟継卿集　写本　一巻

細川幽齋家集　五巻

鵜巣集　写本　四巻

後水尾院御集　写本　一巻或二巻

これは崇光院の御集なり

なお二つ院の御集なり

恭信仁源王の家集なり

櫻井中務卿基佐法名永仙の家集なり

牡丹花肖柏の家集なり　肖柏

雪の井雅俊の家集なり

姉小路済継卿の事　以下略

写本もて伝うるものは脱落多くして而前のもの欠く　此之写本は欠脱なき故此書を以て校訂す

後水尾院御集なり

水日集 写本 二巻
桃藥御集 写本 四巻
黄葉和歌集 五巻
秀葉和歌集 写本 二巻
栄葉和歌集 写本 九巻
不昧(フマイ)尼院殿御集 写本 三巻
後十輪院集 写本 二巻
光梶和歌集 写本 一巻
通躬公集 写本 一巻
芳雲集 写本 一巻
峯白集 十巻
一名緑洞(ヨシトウ)集(しふ) 後西院の御集(なり)
霊元法皇の御集(なり)
烏丸光廣卿の家集(なり)
烏丸資慶々の家集(なり)
烏丸光栄公の家集(なり)
不昧(フマイ)尼院殿御集(なり) 此集ハ法つ人のはなしにて(おもひ)つゝけられたるもの(なり)
中院通村公の家集(なり)
中院通茂公の家集(なり)
記(しる)しあり(なり)
武(たけ)小路実陰(さねかげ)の家集(なり)
豊臣若狭少将勝俊の家集(なり)
天哉翁(てんさいおう)と号(ごう)す

峯白集 三巻
難峯白集 一巻
峯白心評 三巻
道遊集 写本 四巻
廣澤輯藻 四巻
左京大夫集 写本 一巻
華山和歌集 四巻
漫吟集 写本 二十巻
暁花和歌集 写本 二巻
三家和歌集 写本 三巻
中二巻 契沖はじめ三人の和歌(なり)
長雅集 写本 三巻
長伯集 写本 二巻
一名(いちめい)緑洞(ヨシトウ)集(しふ) 後西院の御集(なり)
霊元法皇の御集(なり)
烏丸光廣卿の家集(なり)
烏丸資慶々の家集(なり)
烏丸光栄公の家集(なり)
不昧(フマイ)尼院殿御集(なり) 此集ハ法つ人のはなしにて(おもひ)つゝけられたるもの(なり)
中院通村公の家集(なり)
中院通茂公の家集(なり)
記(しる)しあり(なり)
武(たけ)小路実陰(さねかげ)の家集(なり)
豊臣若狭少将勝俊の家集(なり)
天哉翁(てんさいおう)と号(ごう)す

峯白集 三巻
難峯白集 一巻
峯白心評 三巻
道遊集 写本 四巻
廣澤輯藻 四巻
左京大夫集 写本 一巻
華山和歌集 四巻
漫吟集 写本 二十巻
暁花和歌集 写本 二巻
三家和歌集 写本 三巻
中二巻 契沖はじめ三人の和歌(なり)
長雅集 写本 三巻
長伯集 写本 二巻

研露軒和歌集 写本 二巻
年並草 写本 二十巻
椀葉集 写本 三巻
春葉集 二巻
春満翁 賀茂大人 荷田氏八羽合
歌集 一巻
静舎歌集 一冊
古河乃志 写本 二冊
文布 二冊
一冊
よろづよの
ようろうこと詩の中をぬきいでゝ
とふ玄蕃頭 詩題を部類して
うるこ老中松平 大雅堂の画賛あり
宗朋 詩家数輩 立山老圃 題跋
宣長之像 序自序あり
桂山集 二巻
三藻類聚 二冊
日宝萬女 日男義直之 頒布
三藻日記 二巻
相生乃言葉 一巻
三藻五百首 一冊
鈴屋集 五巻
志野乃葉草 三巻
右 天保五甲午年正月十一日校出之

河海芸雄の家集あり
似雲法師の集あり
葛園宣易朝臣門人井神寛齋
親陽の文集あり
稲荷の祠官荷田春満の集あり
加茂真淵の集あり
真淵門人 牧野宇万伎の千集
真淵門人 侍文女の集
真淵の門人
近江の湯海墨くりぐりぬぐとく
とふ玄蕃頭 詩題を部類して
古體の

中村 萬喜 直衛

歌合類

寛平歌合 写本 一巻
殿上根合 写本 一巻
十二番歌合 写本 一巻
仙洞歌合 写本 一巻
宮川歌合 一巻
六百番歌合 左大将家歌合ともいふ 十巻
南朝五百番歌合 写本 二巻
年中行事歌合 二巻
建二百七十一番歌合一ともいふ 月之名称等ニ而番匠鍛冶なり所
つくるところのものとうりものゝ刀剣の次ニ書図ゐり 下巻
甲午 二月十二日
直道抄之

寛平后宮歌合 写本 一巻
祺子内親王家歌合 写本 一巻
歌合 写本 建暦二年九月十夜歌合なり 一巻
御裳濯河歌合 一巻
千五百番歌合 土御門院建仁元年百首歌合 二十巻 十本
堀川院艶書合 一巻
歌合部類 二十巻
職人盡歌合 三巻

百首類

百人一首 説々異之 一巻
百人一首抄 写本 一巻
百人一首雑衆抄 二巻
百人一首像讃鈔 二巻
百人一首拾穂抄補注
百人一首基箭抄
百人一首改觀抄 写本
同抄 刊本
百人一首之奥抄 写本
百人一首函底記 写本
百人一首秘注 写本

百人一首宗祇抄 写本 一巻
百人一首萬葉 和歌六万葉百人一首注解 一巻
百人一首師説抄 写本 二巻
百人一首拾穂抄 四巻 北村季吟
六巻
三巻 谷口元淡
三巻 井上秋窗
三巻 沙門箕冲
五巻 写伊勢守従今井似閑の門人 家伝の極口ミ水ふきくらふく風宗山〳〵〳〵〳〵改観 抄のあやまりの所ども削りて出ろと加へて作りす
二巻 下河邊長流
一巻 申齋隆徳
二巻 平間長雅

百人一首古説 写本　四巻

百人一首 貞門 著す所なり

百人一首うひまなび

百人一首 ひろこと

新百人一首　一巻

女房百人一首　一巻

武家百人一首　一巻

百人一首 尾崎雅嘉

常徳院義尚公の御作

行人の御作ども

播州姫路城主武部大輔思永の御作

百人一首 賀茂真淵

藏百首　三巻 写本

儒醫奥鍋惣菴の作なり 古人の歌百首詠じて子供女子の教訓とす

菅家百首 写本　一巻

堀河百首　三巻

百首ともに初五百首ともいふ

堀河次郎百首　二巻

ともに俊頼百首ともいふ

堀河百首肝要抄　四巻

藤川百首抄　一巻 二本

藤川百首注 写本　一巻

心敬難題百首 写本　一巻

藤川百首　一巻 京極黄門定家卿

藤川五百首釈　二巻

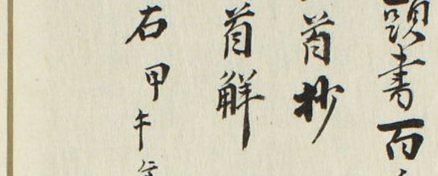
藤川百首部類 写本　一巻

鷹百首　二巻

五社百首 写本 一巻
順徳院御百首 写本 一巻
土御門院御百首 写本
両院御百首 写本 一巻
忠度百首 一巻
東関竹園三百首 写本
宗尊親王文應元年の冬御作なり 百題
朗詠百首 写本 一巻
百首部類 六十二巻
祈雨百首 写本
後福光園摂政百首
南都百首 写本

俊成卿 伊勢 賀茂 春日 日吉 住吉 五社を例の百首なり 写本 一巻
文治々承隆々高兵ふくとのく汉成 一巻
よき歌ともを取集て雅経卿両度の御百首を汉令せらるゝもの 一巻
薄々なる法文後鳥羽院御製ともを取集 一巻
句題百首 写本 一名五五集と称す 一巻
神道百首抄 二巻
津守國久
二條摂政汉令良基公 延文二年八月二十日の百首也 一巻
一条兼良公

兼良公應仁の乱を避けて奈良へ下向ありし時の歌の汉 一巻
大和の国の法花の名所をよみ給ふ百首也 一巻
一日百首 写本 五巻
永正着到百首 飛鳥井雅春卿
宝永仙洞御着到百首 写本 一巻
一人三臣御百首 写本 一巻
享保御着到百首 写本 一巻
澤菴和尚和泉百首 写本 一巻
笑岑富士百首 一巻
新題百首 写本 一巻
百首ばかりにて打聞ともなき
往古の歌物語ともいふべき
似雲富城百首 写本 一巻
五井蘭洲 川井立牧新題百首
春高怨(トウコウヲウ)などの詩の歌なり 胡弓三
百題なるもの

北邊七艸七百首
玉鉾百首　一巻　富士谷成章
玉鉾百首解　一巻　本居宣長
後撰百人一首　二巻　稲掛大平
後撰百人一首　一巻

貞徳頭書百人一首抄　二巻　加藤磐斎
百人一首抄　二巻
百人一首解　一巻　栗本瑞嶺
石甲午年正月十二日
中村直道

千首類
為家卿千首　写本　一巻
師兼千首　写本　一巻
宗良親王千首　一巻
耕雲千首　一巻
南朝の中納言長親ト法名明魏又耕雲ト号ス
為尹千首　一巻
宋雅千首　一巻
文明千首　一巻
牡丹花千首　二巻
慶長千首　写本　一巻
貞享千首　写本　一巻
正徹千首　写本　一巻
天文千首　写本　一巻
元禄千首　写本　一巻
享保千首　写本　一巻

寛延千首 写本 一巻

御撰千首 写本 一巻

好忠尾張守として好忠保任実澄と義政ろくろく秋千二十八首のせうせうたるまでそろはらず冷泉門おほくろくろくに五十條前入さるをふるふる冷泉院圓淨法皇ろくろくひろごせり奏まゐらせ給ふ冷泉院御代永祚元年九月平間長雄十首の歌をいくくつくおの〳〵秋あつめろくろく住吉の松ふるき例すくなき年内立春 いつとさだめろくろくひろごせり奏まゐらせ給ふ冷泉院御代永祚元年九月平間長雄十首の歌をいくくつくおの〳〵秋あつめろくろく住吉の松ふるき例すくなき

奉納千首 二巻

似雲十百首 写本 一巻

澄月千首 写本 二巻

岡崎の垂雲菴澄月晩年よりめる奉納千首なり

右群書一覧巻之四 本書一百十七葉 大略抄写之時

天保五甲午歳晋月十二日

中村萬喜直道

群書一覧巻之五

類題類

類題和歌集 三十一巻

此書写本ハ勅撰類題和歌集ろくろく部ろくろく全部十二巻ろくろく刊本ハ第一巻ろくろく第五巻まで春部第六巻ろくろく第十三巻まで秋部第十四巻ろくろく第十六巻まで冬部第十七巻ろくろく第二十二巻まで恋部第二十三巻ろくろく第二十九巻まで雑部第三十巻ろくろく第三十一巻ろくろく物計 ツヾく署

類題和歌集 写本 十六巻

新類題和歌集 写本 二十巻

霊元法皇の勅よりて烏丸光栄(ナガ)西三條公福卿(キンエ)水無瀬氏成卿

万松堂李卿武者小路実陰公五人の撰ミ ツヾく署

續類題和歌集 写本 三百巻

此書奥刋岩山太宇左京大夫菅原義恭侍史奴以得(イトヲ)小令下ろくろく草創

せりしを時定宝元年の秋より略のけて今令部二巻のうち仁例みづから序仁例一巻を作りより

類題落穂集 写本 四巻
新類題落穂集 写本 四巻
残林拾葉集 写本 一巻
和板歌書の開ける類のうちなれども孫づたえ元より仮名山本紀内源通春とあるもの 下巻

明題和歌全集 十五巻
続五明題和歌集 写本 六巻
題林愚抄 八巻
拾題和歌集 十二巻 惠藤一雄
新明題和歌集 十巻

今川了俊の作なり 五字切十巻 ひくに二八明題と号す

新後明題和歌集 四巻 伯水堂梅風
新題林和歌集 十六巻
新続題林和歌集 十六巻
部類現葉和歌集 十六巻
撰玉類題和歌集 十六巻 六本
袖中證歌集 十六巻 二本
百家類葉 二巻 冨士谷成寿
古今和歌集類題 一巻 松井幸隆
六家集類題 六巻
新玉和歌集類題 二巻 尾崎雅嘉
千首類題 写本 二巻
続撰吟和歌集類題 六巻 一本 同上
三玉和歌集類題 七巻
三槐和歌集 一巻

新續撰吟和歌集類題 字本 二巻 同上
類題證歌集 字本 八巻 同上
草菴和歌集類題 六巻一本
草菴集類題拾遺 一巻
李花和歌集類題 字本 二巻
芳雲和歌集類題 六巻一本
芳雲類題 字本 一巻
桂雲集類題 六巻一本
續似雲集類題 字本 二巻 似雲集類題 一巻

右甲午春 盃春十三日

中村 直衛

和歌雜類

和漢朗詠集 二巻 大納言公任
和漢朗詠集註 十巻
新撰朗詠集 二巻 藤原基俊

公任の朗詠集をひくに同詠をひくに和歌を抄てり 以下署

百寮和歌 字本 一巻 高大丈實無
易然集 字本 一巻 文明易然集 字本 一巻
續撰吟抄 字本 六巻三本 一人三臣和歌 字本 二巻
室永一人三臣和歌 字本 一巻 新一人三臣和歌 字本 一巻
御點取和歌 字本 一巻 高治年中ヨリ寛文年中ニ至ル 御制ヲ始メ諸々ノ人々ノ
天正五十首和歌 字本 一巻 御點取和歌 字本 一巻 文文年中
五玉集 字本 弘也百首ノ一名ナリ 一巻 五葉集 字本 二十巻
四玉和歌集 字本 一巻

新古今竟宴和歌 写本 一巻

厚顔抄 写本 三巻 沙門契沖

巻首に日本紀和歌畧註とあり 此書は 西山公の命によりて日本紀の中の和歌を輯集し長短百三十七首に 古事記の歌百七首 中巻五十一首 日本紀和歌畧註上下 古事記和歌畧註一巻 勒して 厚顔抄と名づけらる 元禄四年八月漢文の自序あり 下畧

紀記歌集 二巻

真淵門人 荷屋鳥取にて 上巻は日本紀の歌下巻は古事記のうた歌 ごとに取出して 下に仮名にて 橘守部 ここに真字をとりて 下畧

日本紀歌解 三巻 宇治五十槻

續日本後紀歌解 一巻 同上 判官の外記の槻の筋にて

竹取翁歌解 一巻 同上

甲午 正月十三日 中村 直道

撰歌類

三十六人撰 一巻 一名三十六歌仙

四條大納言公任卿撰 六家集本 公任卿は 正二位大納言にて 寛弘四年薨ず 年五十二 和歌に 堪能にて 家集 三十六人撰 三十六人歌合 金玉集 深窓秘抄 等あり

後六々撰 写本 一巻

中古三十六歌仙 一巻

女房三十六人歌仙 一巻

歌仙 七巻

集外歌仙 一巻

平常縁 東野州 津守國冬 津守通尼 公言之孫 法名 宗長 宋屋 新

新三十六歌仙 一巻

新三十六人撰歌仙 一巻

釋門三十六人歌仙 一巻 勧修寺僧正栄海 此書古今の歌仙を撰びつゝ 坊間に行はる 仮名序を附す

宗碩 月村斎 永閑 紹巴 西徹 招月庭 正廣 日次 兼載 猪苗代 道澄 白毫 長慶
三好 宗養 政宗 伊達 兼与 猪苗代 玄陳 里村 昌俊 佐竹 尚謙 惣社 長喬
東山 宗祇 種玉庵 心敬 比叡山 十住心院 基佐 榊井 宰相 幣帛 親當 勝川 冬康 三好
紹巴 臨江斎 宗牧 玄旨 細川 心前 元就 毛利 氏康 北条 晴信 武田 氏政
北条 氏真 今川 昌叱 与 里村 政 一小堰 自 貞德 通勝 判
東福門院 御製 一冊 為 後陽成院 御宸筆 一冊 定家 卿 一冊 文安 四年 二月下旬 交野
内匠 頭 為 後陽成院 御染筆 一冊 後水尾院 御染筆 一冊 松花堂 蓮長 二 被 製 畫圖 于 各 合 幅 事

職人歌仙 一巻 烏丸 光廣 卿

三十六貝歌仙 写本 一巻

歌仙金玉抄 二巻

歌仙拾穂抄 二巻

歌仙二葉抄 三巻

三十六人歌仙賛歌 写本 一巻

歌仙大和抄 二巻

九品和歌 一巻

自讃歌 一巻

依成女 三月 有家 卿 定家
秀能 西行 自讃 歌 之

自讃歌註 一巻

自讃歌抄 写本 一巻

自讃歌管注 写本 一巻

甲午 正月十三日

大納言公任

太上天皇 後京極 摂政 前太政大臣 藤原 良経 入道 式子内親王 後鳥羽 院 御製 後成 卿 定家 雅経 寂蓮 已上 十首 各 有 之

自讃歌飛鳥井抄 写本 一巻

東野州平生 日記 の 如 し

一巻 空華庵惠南

中村直道 抄書之

歌學類

和歌四式 一本

歌經標式（カケイヒョウシキ） 一名濱成式　奥撰作式　孫姫式　序あり

石見女式　序あり

八雲御抄

神哥の法式歌學最要のもの

奥儀抄

袋草子

和歌初學抄

清輔雑談集

四卷

三卷 四本

藤原清輔

六卷 七本

順徳院御撰

四卷 同上

四卷 同上

二卷

袖中抄　二十巻　釋顯昭

古今集の頌昭の作と云事集古今集より抄出るそ
詞の玉囲あるを抄出て歌のくち
かりともなり

悦目抄　一巻　藤原基俊

一名和歌四病集　一名吏科亀鏡ともいふ

色葉和難抄　字本　十巻

和歌集の中に考へ合せ民部卿の作なとの
多詠れるの仮名つかひ歌の
こゝちするものを抄出

新撰髄脳　一巻　大納言公任

古今集の序を抄出し歌論
旅路にて

古語深秘抄　十巻

歌学の書十九種を抄出す　巻下略ス

和歌六部抄　六巻

和歌式　定家卿　正風体抄　同上　和歌庭訓　同　八雲口傳　右家卿
和歌口傳　家隆　近来風体　良基公　二条の節者一巻ともよの百首添削抄
のやうなること

詠歌大概　一巻　定家卿

歌仙絵ハ歌をよく味ひ心のおよふ
ところを絵にうつすへし歌仙七の仰を抜出
ところ歌をよく味ひ心のおよふ

詠歌大概抄　二巻　二本　細川幽齋

未來記　一巻　定家卿

未來記雨中吟　一巻　松井幸隆

三部抄　四巻　定家卿

詠歌大概　秀歌大躰　百人一首　未来記　雨中吟は三部抄と号して二條家正風の
教となす　未来記雨中吟を附録として御伝授あるなり　三部抄は
未来記雨中吟の二つは凡作のあしきためしをあげたれば未来記雨中吟を除て秀歌大略
百人一首の三部を正風の規則として歌学ぶ人のよりどころとする事なり

三部抄の抄　五巻

三部抄増註　十巻　加藤磐斎

和歌七部抄　八巻　詠歌大概　秀歌大略　百人一首　未来記　雨中吟　三体和歌　後鳥羽院御百首

兼元抄　写本　一巻　定家卿

定家物語　写本　一巻

三五記　頭書抄と二巻となれり　二巻　定家卿の作といへども偽作なるべし

愚秘書　これは頭書抄と二巻となれり　二巻　此書も三五記と同じくうたがはし

桐火桶　二巻

俊成卿の庭訓を定家卿の記されしものなりとて　人麿　赤人　業平

を又はじめ　紀貫之　躬恒　伊勢　遍昭　素性　家持　猿丸　喜撰　小町　僧正遍昭
忠岑　貫之　友則　興風　兼輔　是則　敏行　菅家　西行　俊成

此人々の歌を一首二首ツヽ挙て品々あげつらひ評したるなり
此書は桐火桶と名づけたるは此書の奥に俊成卿の火桶を
抱きてよみ給ひし事などありしによりてかくなづけしとぞ　されど桐火
桶のたぐひ多くありて詠作の時桐火桶によりかかりて案じ給ひしとぞ
作らしむるほどにおそれおほくも定家卿の筆とし給ひしにや
うたがはしく　又は俊成卿の作なりとも伝へたり
うへより桐火桶とうけたまはりしなれど
大桶まうけて火をいれてすへよといひしなり
ありさまをおもはせたまひしとぞ　俊成卿の歌よみ給ふとき
きよげなるきぬの上にて桐火桶をいだき　ひとり案じ給ふとき
案じさせたまひしとなり　一つの説に此書を定家卿の作にあらず
ちかき世の人の作なりといふ人もあり　此書もまた
まぎらはしきおほし　よく〳〵心を付べし

古来風躰抄　五巻　俊成卿

此書の本体は式子内親王より古今以来の歌のありさまを問はせ給ひしに
かきて奉られし書なり　歌の姿をかきあらはしてかくばかりのよき
ものなし　歌よむ人は必ずみるべき書なり

近來風體和歌無底抄　一卷　二条良基公
無名抄　十卷　藤原基俊
竹園抄　為家卿小倉の時分の作にて瓦坂人丸のやしろへ詣らるゝ道にて書給ふ　二卷　鴨長明
裳末和歌　寫本　十四卷二本　源光行
井蛙抄　六卷　頓阿法師
井蛙抄脫露　寫本　一卷
愚問賢注　一卷

愚問賢注　五卷　松井幸隆
幸隆の門弟故六窓抄の注釋なり
歌林良材集　二卷　一條兼良公
書籍歌の名となりある文段を引て歌の出所を注せり
續歌林良材集　二卷　下河邊長流
言塵集　七卷　今川了俊
藻鹽草　二十卷　月村齋宗碩
續藻鹽草　寫本　十卷
東野州聞書　一卷五本
東常縁より古今傳受の時聞書せしを近代大夫平常縁徽書記と称す
近體の事より發明の説多し　常縁法名秀傳と云ふ　文明年中
物しるす説を抄録せしものなり
幽齋聞書　二卷

正徹物語　二巻

心敬さゝめごと　二巻

歌林樸樕　写本　竹下林有樸樕一　七巻　松永貞徳

歌林雑話　二巻四本　同上

一名貞徳翁記　松永貞徳の孫　松永昌易法子の席間也

二根集　写本　一巻

座右集　写本　二巻

耳底記　一巻

春雨抄　十巻二十本　龜重常

和歌題林抄　二巻

増補和歌題林抄　十一巻

掌中題林抄　一巻　尾崎雅嘉

種心秘要抄　写本　八巻

一字御抄　二巻　後水尾院

百題拾葉　八巻

古今類句　三十四巻　山本春正

新和歌類句集　写本　百巻

夫木抄類句　写本　三十巻

草庵集類句　四巻

五句類葉集　三巻　松枝子春
類葉和歌集　六巻
藏玉和歌集　一巻
呉竹集　十巻
呉竹集小刻　二巻
ささ分草　二巻　河瀬菅雄
掌中まさ木等　一巻
和歌初之抄　字本　十五巻　北村季吟
萩乃志をり　二巻　中堀信菴
西本のしをり　五巻七本
和歌宇書　一名歌道人初学よりふ　六巻
新歌大本　字本　五巻

題讀曲切紙　字本　一巻
皇統尊辨等讀曲切紙　字本　一巻
以書ハ神武天皇より正親町院御宇天正年号開ヨリ以下迄
姉小路式　字本　一巻
春樹顕秘抄　字本　一巻
飛鳥井家式法　字本　一巻
和歌饗宴私記　字本　一巻　姉小路実紀朝臣
溪雲問答　字本　一巻
歌林飛弾工　字本　一巻
詞林拾葉　字本　一巻
穂玉集　字本　一巻

梨本集　一巻　五本　梨木茂腰（モスヤ）
和歌伊勢海　二巻　梨木茂腰（モスヤ）
清乃玉　五巻
鳴（ナキ）の羽摧（ハヲカヽ）　三巻
柏傳　一巻　野田忠蕭
歌囊井蛙談　二巻　百菴言滿
歌林記識編　同上
和歌衆撰抄　二巻
和歌八重垣　七巻　有賀長伯
和歌二葉草　七巻　同上
初学和歌式　七巻　同上
演（ヒロ）ふもゝぐ　二巻　同上

和歌分類　七巻　同上
歌林雜木抄　六巻　同上
和歌麓の塵　三巻　同上
和歌道ちりべ　一巻　巻首ヽ栄雅讀方和歌ちりべしる
増補和歌道ちりべ　九巻　四本　河瀬菅雄
てるはの抄　一巻　同上
和歌童蒙抄　一巻　同上
てるはなもとみ　一巻　本庄宣長
言葉の玉の緒　七巻　同上
玉かつま　一巻　同上
てるはの細（アヒキッテ）小間　二巻　柵井一室
蛛のすがゝき　二巻　同上

かざし抄　三巻　富士谷成章
あゆひ抄　六巻　同上
和歌塵芥考　一巻二冊　加藤景範
和歌實(ジッピ)践集　五巻　同上
濱ひと　一巻　同上
和歌玉柏　二巻　度會常夏
異名分類抄　四巻　入江昌喜(マサヨシ)
歌意考　字本　一巻　賀茂真淵
あづまのけぶり　一巻　小澤芦菴
明題部類抄　七巻
增補和歌明題部類　二巻　尾崎雅嘉
續和歌明題部類　一巻　同上

掌中明題集　一巻　同上
掌中類題集　一巻　同上
組題集　一巻　部類名所考　一巻
和歌題辭要解　一巻　伴蒿蹊
枕詞燭明抄　三巻　下河邊長流
冠辭(カムリゴト)考　十巻　賀茂真淵
冠辭考續貂　七巻　上田秋成
詞草小苑　一巻　建凉岱
枕詞補註　二巻　尾崎雅嘉

狗尾續貂の外にもあるべし

石甲午正月十八日抄出之

中村直衛

詩文類

懐風藻　一巻　二本　淡海三船

皇朝の詩集の権輿なり　撰者の名伝ふず　漢文の皇帝より漢詩
乃ち平都に及ぶまで　凡一百二十篇　勅して一巻となす　作者六十
四人　異か姓名伝　題し　爵里を録して篇首に冠らしむ
ゆゑ天平勝宝三年辛卯十月　以下闕

文華秀麗集　写本　一巻

撰者たれびとなるを詳にせず　詩凡そ四十篇　この書もと三巻ありしと
いへど　今存するところ　ただ一巻のみ

経國集　写本　六巻

もと二十巻ありしと　良岑安世滋野貞主等の撰　今存するは
残欠の本六巻　以下闕

無題詩集　写本　三巻一本

御室書籍目録に　本朝無題詩十三巻と有るこの撰者伝ふず
さればこれも今存するところ　この数欠のみ　以下闕

本朝文粋　十五巻　藤原明衡（アキヒラ）

如意十四巻　懐目録一巻　仮名序　十五巻より　堀河天皇の弘仁年中
より一條院の寛弘年中まで　十五代二百餘年の詞人文章の
みを採部類して編集す　以下闕

続本朝文粋　写本　十三巻　藤原季綱

明衡の本朝文粋以後のみを収めたり　中略　東見記より　後文粋ハ
十四巻より　今十三巻のみ存す　以下闕

朝野群載　写本　二十一巻　三善為康

自序より多集に及ぶ故之を以て知るべし　一部類成二十巻　一号曰

野槐載一時永久三陪両申之年
書同よい二十巻こゝろやり今の本
左傳りの山谷詩お集宗淀帝の保定五年官刊す

都氏文集 写本 一巻

菅家文草 十二巻

菅家後草 一巻

梅ちこ菅家文集十二巻こゝろやり流わりこれお集十二巻こ
今もちるものなる杜子の説よなる二巻こゝろやる伝もれて今伝わるの一巻ハ
り伝統よや今の刊本第川道祐のまゝなるこゝろ

三教指帰 三巻一本 釋空海

三教指帰覺明註 七巻

三教指帰註刪補 七巻 沙門運敞

文鏡秘府論 六巻 釋空海

性靈集 十巻 同上

弘法大師の詩文集なり大少の
巻の前よ遍照發揮性靈集と
門奥濟撰集とこゝろやり

性靈集鈔 十七巻 沙門運敞

本集の註やり又十二巻の鈔わり
濟北集 東福寺鹿関禅師の詩文集なり 二十巻 鹿関禅師

叡室録 江州永源寺開山玄光叡室の集なり 二巻 沙門叡室

梅花無盡藏 写本 四巻 漆桶萬里

帳中香 二十一巻五十本 同上

山谷詩集の抄之字不成ハ法抄ろこ本集二十巻序寒如寒の抄ろこ梅花無盡藏
漆桶萬里編こゝろやりこゝろぐこゝろ事末の図伝のせこゝろ

四河入海　百巻
東坡詩集のおもなり　建長寺の住笑雲寿桂法座にて抄集しと云(うん)沽(こ)字本なり
翰林葫蘆集　写本　一巻
此書も禅僧宜竹が詩集なり　宜竹も幽斎の流の人なり
半陶稿　六巻
相國寺法住院の彦龍蔵主周興の集なり　彦龍は深草の陶工の子横川和尚の弟子にて義林の英秀なり　四六の文よろしくこなり　三十四歳にて寂す
猶宣竹軒景徐乃序につまびらかなり　惺窩の曰彦蔵雖為異教之徒又一代傑人余所二甚愛重一也と
彭叔和尚録　写本　一巻
南禅寺の前住東福寺の見住彭叔守仙の詩偈文章の集なり
宗休和尚録　写本　一巻

妙心寺宗休和尚の詩文集にて多く永正天文の比の著述抄もなり　写本
狂雲集　二巻
一休和尚の詩集なり　和尚は宗純別号狂雲子と号すもって此集の名となり
木朝一人一首　十巻　五本
萬治の初弘文院林氏の抄なり　大友皇子の比より中古近世に及ぶまで諸家一首ずつの詩歌ひのせうの禅僧の詩と惺窩羅山の抄とこれ抄のせうの抄なり抄は一條家の世系抄つなり
木朝百人一詩　一巻
林道春の抄なり　百人の詩歌一首抄を別な百人一詩なり　明暦元年丙申抄
名家百人の詩歌抄一くり　道春春齋春徳これ抄なり　漢魏六朝唐宋の
五巻　三本　野間三竹

上天子より下群庶まで詩體に於て各其所長を以て採集す

悝窩文集　八卷　藤原肅

此書四集五卷に門人林道春之を校編す　寛永四年刊

同

此一本は悝窩先生の男冷泉羽林為京朝臣の編集する所なり　慶安四年後光明帝御製の序あり　十卷

羅山文集

文集七十五卷　詩集七十五卷　百五十五卷　六十本

日本第一の大都の文集なり　朝鮮の兪秋潭曰本之文章以羅山爲第一とするは悝窩をさしおき羅山を取捨あるべきの論なり　もの為しもの言に優劣もあるべし　凡例に文粹詩選に俟後世博雅者と宇士のもとめられるに

以て其所長すべきものをとる

梅洞集　四十卷　林春信

弘文院学士の撰す　春信の詩文集なり　自撰詩集十卷　文集十卷

續詩集二十卷　竹洞友元の序あり　○春信一名懋字は惣右衛門と号す　又勉斎と称す　幼くして神童奇才の誉あり　二十歳にして此集詩文ともに梅洞の自撰なり　續詩集は弟春常これを編集す

春常これと編集す　春常一名懋字は直民　懋字と號す　二十卷　林春德

讀耕全集

羅山の次子讀耕齋春德の詩文集なり　春德一名は靖字は彦復　讀耕林子と称す

活所遺稿　十卷　那波道圓

那波道圓の詩文集なり　其長子祐生木菴守之これを編集す

老圃堂詩集　三巻　那波木菴

道圓の嗣子木菴の詩集之木菴名は守之字は元成父の業を継ぐ化藩に仕ふ

寝牀集　三巻　石川丈山

霞牀集頭書　三巻　野間三竹

霞牀全集　二十三巻十四本

草山集　三十巻十五本　沙門元政

城州深草瑞光寺の住持元政の詩文集なり

谷口山詩集　六巻

此書八草山集三十巻の中より詩篇のみを抜萃せるものなり

史館茗話　一巻　林春信

此書漢文にて皇朝の詩話文論をあつめたるもの弘文院林氏添補す

歴朝詩纂　前編　二十巻十本

大同弘仁の頃より當代にいたるまでの詩人百餘家一百巻とす寛中係えし者の撰ぶところ前編とす中書○此書八宇山侯従四位侍従源頼寛黄龍公の撰ぶ寛保元酉序中書○同年冬黄龍公の自序等あり

歴朝詩纂　後編　二十巻十本

この後の嘉永安政の頃より當代にいたるまでの詩人百餘家一百巻とす前編と同じく黄龍公の撰ぶ嘉永元申年冬の自序あり

日本詩史　五巻　三本　江村綬

皇朝文人の詩人数あげくさぐさ批評論ずる詩史と称するなり

甲午春　正月十九日　中村直道

百巻

大同類聚方
大同二年右衛門佐安倍真貞侍医出雲廣貞等勅奉レ撰
今書ハ亡びて今存するところ鈔録一巻あり 乃下脱

一巻　丹波雅忠

醫略抄
永保元年侍医丹波雅忠（マサ）撰す巻首と序あり 書中多く千金方 病源論を引て

五十巻　梶原性全

萬安方 写本
羅山文集に曰安倍真貞が大同類聚方菅原峰嗣の金蘭方
丹波雅忠康頼の医心方大医博士源朝仁の傷本草養生抄小野氏の集註
太素経其後平性全の萬安方僅に世に存す余嘗て萬安方を以て
鹿苑相公の花押ある古写の副本を得たりと

十巻　同上

頓醫鈔 写本
巻首題号なく性全集の三字あり

二巻

十三巻　澗甫和尚

捧心方 写本
新撰補遺捧心方 写本
天文の比南禅寺の澗甫和尚さきに中川子の撰ずる捧心方を該書と
比校して薬の分量の差異増減等大抵三之一を省き別に一巻を附す 下署

一巻　竹田昭慶

延壽類要
神應經
此書本朝より伝ふる書なりずと云ふ
治すること八處の灸法以の下も取るべきことあるのみ

一巻　活民子

古今奇驗連珠方 写本

二巻　同上

精英本草 写本

一巻二本

精選秘用方 写本

福田方　十二巻　沙門有林
袖中記秘方 写本　二巻
草全日用奇妙集 写本　一巻
慈濟軒方書 写本　六巻
啓迪(ケイテキ)集　八巻　翠竹軒道三
切紙　一巻　同上
冝禁本草　二巻　同上
天正記　二巻　同上
續天正記　一巻　同上
濟民記　道三法印の著書あまたそろえようとふ。按ずるに玄朔校季とつゞめりもれたるを三とするなるべし　三巻　同上
醫法明鑑　四巻　延壽院玄朔
延壽撮要　一巻　同上

養生の要旨以つゞめたるもの後陽成院乃叡覧そうなえようとふ。按ずるに玄朔
時に適ふと稱せり一渓の佳作なりよし一渓氏以古道三と稱す
食醫要編　一巻　僧元政
廣求經驗秘方 写本　一巻　向井玄升
本朝醫考　三巻　黒川道祐
日本の名醫の小傳以もつぱら
上巻　大己貴命以始め細川勝元以終ります
中巻　和氣丹波両流の人〻上池院　竹田吉田久志本　壽命院等の道統
の人〻鍼医外科目医等
下巻　國史に見えたる医薬の故實　凡散藥石の名　古代諸國進年の雑藥
本朝医書目録　高麗牒状等以のす　寛文癸卯十二月弘文院学士向陽林氏の序あり
二巻　釋栄西
喫茶養生記(キツサ) 写本

安騨集 写本
圓鏡 写本
梧桐 写本

右 甲午歳 晋月念日

中村直道

教訓類

管家遺誡 写本

三十二條乃中軍後三四條あとれ仁君久要政者以撫民為本ことしるよめる
次ニ掌神祀祭之法之次ニ神事神薗之事入租貢税之法之次ニ署

一巻

實語教

二巻

洋福寺惠空の説と曰此書いかぶ仏有仏つよびうそず世ひつへていとく

六十巻 二十一本
二十巻 一本
十二巻 一本

弘法大師の作りそうのぞ河く秘府論三教指帰性霊集等孤たくつて
なく小冬世ニいるくのおとたくばれだ文字をなくぶたびひくろと義理
明くろろ〜めとろ仏法の作ニ〜ふきくうとうぶ法ありて署く

童子教

一巻 釋安然

惠空の説ニいとく西惠僧都比等帝都ニ於て山門の法印ニ値く後筆綴の林
註仏相伝せ一時ちそみくいとく世ニ実後亜ニの三教ニて非人の作ぞやと
法印おいて童子教ハ五大院の安然和尚の製作しろの外ハ和尚まづし
ろう一切ニ法陽ニ広伝したまふ童子教ハ安然ひく書ニよろそへくろく手月仏
ろうべおたぐひくろうらもう諸呪心義那身成仏義れ就なくたろおれじけるふ文義
説りせんがため同果の法経仏ニ巻のおりよりくろ幼童ニ
もろ教時間言菩提心義那身成仏義れ就なくたろおれじけるふ文義
へろくぐれさりなぐ童子のそ
同人法華経百三十五段資重大同ニ入たのりおいつ條ニ三氏名同ニ入たも
かりのぐくおりほんおを入たまりぐ石間蔵不安ニよりふ五字のりうな
ろうれく一代乃学問及むろくれ人今ハ世ニその船ニのさを作る学ハ当世
和尚の意ニ教えそくう教引用のろ引ハ仏ニ教ニ書おし
ろくいとれくくのそれんとのおりよ意ニ教つもしのあさき書おし
真不一おりひなてこそもんおしろうぬつく尚書いとく左の学ハ
ぬぐしか今のぞハぬべしと作り又一切経のろうろく二界のろ住ニ人ほど勝れたるき

…ふにれうとく仏のひくきひかり
…届しるをしてしものそうをめぐ
…ととくおうことのりのる輪の却のつもおうんぐぐ

實語教童子教諺解

…刻浄福寺惠空和上十五歳の時作る後解之 永平元の処りしばひ…好
…ひくめく刊行せり巻末に弱山傳惠空老学二歳考と…ぬり 以下畧

和論語

十訓抄

…刊本二本ありいまだ一本は井澤長秀の校訂なり…
…笑ることなかれその…
…る和字月のそうでの…
…のぐむ若今佛のひょうこと…

直道編謂林氏以下東見記及本朝孝子傳等共以十訓抄為…
為長撰序中云建長四年冬十月中旬卜庵於東山下云云而玉代一覧
寛元四年三月前参議菅原為長卒歳八十九似相齟齬如何

三巻

人鏡論

…ぬり刊本金持童宝記と…
…人ぐ人をとうぬり其文章人情
…ぬ人鏡論は利義政作とい…
…本乃中ねい富ぬり…
…義ぬとあもぐと好事者の…

清水物語

…ぬまでの死人と同ぐのる
…傷ぐを仮ぐ仮いぐとぬりを刊本
…

孝経外傳或問 写本

孝道のこういふ仏ぐうふ礼ふれおれ…
毎條或問ぬけく仏平…
…ぬ仮論ぐるぐりく源氏物語ぬりる書中琵琶箇ぐの
…の論あるの仏説ふくぐ用の長物ぐれもぐ人ぐぬ…
…ぐうぐれぐーぐぬぐーぐぬぐ…
…仏ぐうぐ人ぐ…

四巻

熊澤了介

北賢鑑　三十一巻　蒜井懶齋

第一巻より第十二巻まで伏体二巻
はその御意大略小学の書より抜き
和語にて古今にわたり教戒
かんとするものなりき寛字丁卯十月
四月伏見江隠人とりけるの序なり。伏江隠士仲文敬甫著ともとより友
井懶齋のもとに回覧二年四月上木す

直道柳北書著述播龍子室鳩巣共ニ為仲村惕齋著ト惕齋懶齋
共是同時學友彼此著書互有序文故茲本文説誤耳

壺乃石文　十二巻

折者つまびらかにて女の教訓になりく

女四書　七巻　辻原元甫

女孝經　二巻　女論語　二巻　内訓　二巻　女誡　一巻

此四部乃書伏合をもとめくれ澤山ら明唐初まで乃伏版也下ニ

大和小學　六巻　同上

朱子の小学伏りやすくやまとことばにやわらげく書ものへ
やすくしたしみやすき上下八巻となりそう

大和小學　一巻五本　山崎闇齋

朱子小学篇目のうち三教明倫敬身乃三門伏えく筋目を施せる伏也

婦人養草　五巻十本　梅陽散人

大和俗訓　八巻五本　貝原篤信

童子訓　五巻　同上

初學訓　五巻　同上

家道訓　六巻　同上

五常訓　五巻　同上

この書ものも伏年をおもてく版さらもとも伏也著明なり

垂裕堂家訓　写本　一巻　唐金梅所

家訓十五條撰して毎條ごとにかなよくかきくだして以てきこしめせらと文典雅にして賞すべきものなり　下略

日本宝訓　一巻

天智　嵯峨　村上　花園　後小松　後宇多　後柏原天皇等の聖語及あげ次に日本忠訓と標して　鎌足　武智麻呂等より　雅親　隆継等に至るまで數十人の嘉言をのせ又次に婦女の嘉言をあつめし巻末に忠臣譜略を附したり

女學範　二巻　大江資衡

巻首大略　女官品階　讀書　歌人名數　和歌法式　貞女孝婦　女中学者　詩人　文人　歌人　書学　西事　香道　貝盒　衣服　染色　布帛　婦用　琴　雙六　雛祭　七夕祭等の図をあらはせり　明和五年刊行す

甲午正月念一日　中村直衛

釋書類

日本靈異記　写本　三巻　沙門景戒

此書雄略帝の時より嵯峨帝の時にいたるまでの事を載す善悪報應にあづかれることを漢字にてしるせり此書の作者景戒は孝謙帝の時の人なりといへり巻首に日本國現報善悪靈異記　諾樂右京藥師寺沙門景戒録としるせり　下略

假名日本靈記　写本　三巻

漢字の本を假字にやはらげたるなり何人の所為なるかしらず本書を省略して前後たがひに錯亂して序文もなし今の徴とするにたらざるものなり

説法明眼論　一巻

平維章が和漢二子辨に曰一樹の陰にやどり一河の流をくむことも　これみな他生の縁なりといふことはいづれの書にいでたるをしらず演史ものがたりにもかゝることをいひならはせり貝原好古が諺草にもいまだ見あたらずといへり[illegible]小幡子直行ぬし時宗福寺にて秘刹にて説法明眼論を見つけしに聖徳太子の作なりとあり此書因にあはせてよりて八百年ほど以前に偽撰したるものなり相承のよしいふもの也

これまでの三帖をつゞめ
宝物集
平判官康頼鬼界嶋より帰られ
破禽と坊主とをよせて教化
宝物集 略本
七巻 平康頼
三巻
これ以前遠流の時の判物の中より一別に法救寺を作れ
撰集抄
九巻 西行法師
寿永年中西行撰別に善通寺より
おびたゞしく江の名のもとに方外の人々を称揚
多くは人の作者の説どもを
撰集抄 光悦本
三巻
和河原光悦の自筆なれば本説
多く判物なり

沙石集
巻ごとに十ありてその中
ちく聖一国師の弟子ちりとぶ
発心集
長明入道の述懐ありて人の
三部仮名鈔
帰命本願抄 上中下 西要抄 上下
十巻 無住法師
無住は俗姓卜部氏
七巻 向阿上人
三巻 鴨長明
父子相迎 上下

三部假名抄諺注　七巻　敦恩寺湛澄
経の文ばかりをさうれの文を注そうするまうぶる注をとりいでゝ
の注をとりてそうして八ゝゆりぬとよむ
三部假名抄言釋　二巻　加茂真淵
要解諺注ホカあやまり文ことりをりそう和訳注せう　下略
此三部合せの書にそうの数阿を八回文ひるまうて存せずく
これ仮注をうしいてうされどうのおの文ばくくのハあるずたうの要
解諺注の和語訳ときあやまりるまゞ仮ことくうくことゞの注なり
なり く言釋と号せう　下略
厳岳要記　写本　二巻
此書古写本厳山開基に於の事実なるせう　下略
談峰縁起便蒙　二巻　沙門光榮
多武峰縁起ハ注し漢字仮名交ぜ文仮四十三章よりうち
誓願寺縁起　三巻　譚峰蓮光院の沙門光宗の作ゝ　下略
法華譯和集　五巻　實海法師
法華経二十八品の文仮名ありうそれをうつ仮名ばかり抜集り抜ひ出く
略法華経和歌　四巻二本　権律師日朝
說法用歌集諺注　十巻五本
女集の注名をつまびらかならず注者ハ洛陽隠士吹内山雲子注あり
釋教題林集　八巻　随有軒浄恵
漢語歌ゝとうの歌ゝうの仮代の抜集あくの集の中よりとり出くまるせう
片岡山　五巻　平間長雅
富緒川　二巻　同上

來葉和歌集　三巻　報恩寺湛澄
月乃ゆくへ　一巻　法輪坊元説
釋教玉林和歌集　四巻一本　先啓

右　甲午正月念三日　中村直道

管絃類

梁塵愚案鈔　二巻　一條兼良公
上巻　神樂　庭燎（ニハビ）　阿知女作法　採物（トリモノ）歌　大前張（サイバリ）　小前張
下巻　催馬樂（サイバラ）　律呂

奥ふ神樂中採物いく催馬樂の譜一条左大臣の時よるしてめでく律呂の説をさだめられたりといへり云々○此書乃本名神樂催馬樂秘鈔と号すいにしへの神樂催馬樂の書に後成恩寺殿の注を加へ給ふ今加へ一名愚按抄と号せられたり今此刊本に元禄二年序有り○梅がえの御室書籍目録に梁塵秘抄二十巻後白河院勅撰とあるを假名好
法師の時まで八ろ此書傳はりけるにや催馬樂等ハ梁塵秘抄の郢曲のこゝろとすへしあそびれたるにして物語のめでたきけにも見えてまた此書今の世に傳はらずされど其書體ハ知るべくもあらず梁塵秘抄には神樂催馬樂東遊歌郢曲等あらくこゝろあそびを知りしハ後成恩寺殿も書中より神樂催馬樂ハ抜出し注釈ハ加へられ梁塵愚案抄と名付させたまへるにハ前に知れぬる也

神樂催馬樂歌　写本　一巻
此書梁塵愚案抄乃本文と大同小異あるものゝ　下略

催馬樂章曲　写本　一巻
大嘗會田歌　写本　一巻
當道宴曲集　写本　五巻
郢曲の類ハ四字密雜まかりてこれをのす
宴曲鈔　写本　三巻
郢曲の書なり　書體おほむね上に同じ

拾菓集 写本　二巻　宴曲集乃なよあつめたる郢曲也

拾菓集 写本　一巻　上に同じ

郢曲撰要 写本　十八巻　沙弥明空

仁智要録 写本　十二巻　藤原師長

箏曲の書なり巻首に太政大臣従一位藤原朝臣師長撰とあるなり

五重序 写本　一巻

管絃の事して深き所作などを記せり五重ハ毛皮肉骨髄の五なりとく

鳴鳳集 写本　一巻　所作法などしるせず

體源鈔 写本　二十巻　豊原統秋

豊原の姓の字乃旁よとりて體源と名づけられし　以下略

胡琴教録 写本　二巻　琵琶の事を記されたるなり

樂譜要録 写本　十五巻

琴曲抄　二巻

此書ハ八橋流築紫箏十三組外に新曲二組を補ひ一流の手ほどきつけ唱歌の註釈などくはへたるものなり巻首に十三組ありし元禄乙亥二月作者の自序に箏ハ八橋検校伝来のよしをくはしくのせたり

上巻　菜蕗　梅が枝　心尽し　天下太平　薄雪　雪の上　雲井曲

以上七組と表組といふ　下巻　薄衣　桐壺　須磨　四季曲　扇曲

橋姫 新組　何れも新組　以上十五組なり　元禄七年九月の奥書あり

撫箏雅譜集　三巻

安村検校弟子の手ほどきよし裏表中許箏の深き秘事などもしるせし　以下略

琴組唱歌集　一巻

安永年中八橋流の住山検校かけし組を補ひすなはち曲節をあらためて作らしく表裏中許奥許の深き秘事ども手校しらしめらるる門人亀嶋検校

久米園勾当桐とらりし梓しらるなし　以下略

箏曲大意抄　六巻　山田松黒

謡書六百番の表裏中ゆ[illegible]
七百せり万葉のほまで安撫[illegible]

謡抄

百番の謡のほとり作者[illegible]

調謌抄

自序[illegible]
この謌秋[illegible]
さるべきところ[illegible]
やまとうたの[illegible]
識乃字 梱の[illegible]
うるのは書[illegible]
表紙 朱北 百万 [illegible]

法音抄

謡書二十二番の[illegible]

二十巻 惠南

三巻

謡曲拾葉抄

奈良工産

謡書六番観世両流の[illegible]
よ雑注[illegible]

能苑傳書

八巻

右

天保五甲午年春正月二十三日抄録之 中村萬喜直道

百九葉

二十巻

十二巻 加藤盤齋

五巻 惠空和尚

群書一覧巻之六

地理類

日本風土記 写本　五十巻

續日本紀巻之六ニ曰元明天皇の和銅六年五月甲子畿内七道の諸國ニ制して郡郷の名好字を著其郡内ニ生ずるところの銀銅彩色草木禽獣魚蟲等の物具ニ色目を録し及び土地の沃塉山川原野の名號の由ところ又古老相傳ふる舊聞異事史籍ニ載て言上せしむといふ○本朝書籍目録ニ云風土記の事 扶桑略記ニ見えたり○今按ずるに万葉緯ニ云今案ずるに元正天皇風土記の跡をひきたまふといへど紀中ニ撰進の文をのせず又或ハ仁明帝これを撰しめたまひ延喜の時全く備りしといふ説もありといへども元正帝より以後注こうかも撰進するに依て史籍ニ載ざるか出雲國の風土記ニ至て巻末ニ書して云天平五年二月廿日といへり此後勘造すこゝ此間にこれを勘造すといへるハ全からずなりしを亡失するゆへ茲ニ依て延喜の賢主展轉反側して諸国ニ探りもとめたまふ官符ニ諸國風土記の文ありべしといふときハ則これなりときこえ全く備りしも中ころ失ひたり書目ニ事 扶桑略記にええたりと書 のゝ誤か

するといへども載るところの風土記の残篇も亦失へり惜哉倚りてざりて仰て嘆ずべし今なほ全部なるものハ出雲一國のと流布のものあるといへども伝写の謬誤すくなからず全書写することもむづかし今出雲の國造の文庫に有るところと同じく全きとなん篇首とす伊勢豊後にも次餘ハ諸書ニ引證するところの遺文ハ何つれも大かたの考おはる篇ばかりなす〇本居宣長曰風土記ハいとふるきものなるを今ハたゞ出雲一國のミ全くて残りくまハみなうせたるハいとくちをしさるハ應仁よりこなたうちつゞきたる都の乱ニよりて古書どもみなうせたるぼひうせたるなるべし今の世のごとく学問する人も多からず書もとる人も多からずしてみな…

出雲風土記考 写本

出雲風土記の諸写本の考えより庵我式芳公引證す 以下畧

一巻　荷田春満

國名風土記

巻首より日本紀の内國名風土記ともより國ごとの由来

八巻

うれたく記す仰ぎつまびらかにせず

二十八巻　貝原篤信

筑前國續風土記 写本

本居宣長が玉勝間に云筑前國續風土記とふものありと貝原篤信が
かけるものなりとかくのごとくいへるのみにて其書をばいまだ
見ずとかや七八十五十六と五巻ばかりありとぞ其後いまだ十五
十六の二巻をば見ず十五の巻八四十四丁ひら
七八の二巻ハ宗像郡の三前の大社のことを貝原乃翁ハ名ある儒者
なりしかば其書ハいと精しくこまかに記されたるならんと
思ひしに其書ハいと大ざつぱにしてくはしからず
雅楽頭がいへるごとく此書ハ流布せざりけるにやいと稀有
なりさるを支人木世肅平が所に一本ありしを幸と全部を熟覧しつ
るに其書の序目等ハなくすべて○巻首数字の下に貝原篤信選定
と原本古編録とありて其次に目録とありて次に目録の例のごとく
提要一巻　福岡二巻　博多三巻　那珂郡四巻六下　席田郡五巻

御笠郡 自六至八巻　夜須郡 九巻　上座郡下座郡 十巻
嘉摩郡穂波郡 十一巻　鞍手郡 十二巻　遠賀 十三巻十四巻　宗像郡 十五巻十六巻
粟柏屋郡 十七巻　表柏屋郡 十八巻　早良郡 十九巻　怡土郡 二十巻
志摩郡 二十一巻　古城古戦場 二十二巻至二十六巻　土産考 二十七巻二十八巻
○毎巻小目録あり 末一巻提要ニハ總論　國中田畠高戸数人数町数
神社数 寺数　馬牛数 船数　郷名 河内名 廣野 高山 深谷 松原
廣村 大塘　廢寺 十三塚 石窟 記 海邊石壘 記 筑紫探題 河水記
瀑布 飯盛山 等のもの を記す　假字序文下署 真道謂漢文序見自娯集一

民部省圖帳 尾張國 写本　二巻

日本國分記 写本　十巻

一年錄別の土産人物穀物等をもの之ごとく毎國図ありて右の説の書とかくそう

日本國圖　一鋪

大日本六十八州圖 写本　七十鋪

國ごとに四方の里数郡村山川城主の名をしるしくさぐさ別なり

雑別府志

山城一國のもの 仮字序あり

山別仮雑別と訓ずる義を説きて漢土の雑別と長崎の仮名志の體とならふるをもて之を門類仮十一ようそう 中巻

山別名跡志

全編片仮字にて記す ○元禄十五年三月自序まえに西都に生じて盛年より漢土の雑別と長崎の仮名志の體とならふるをもて之を門類仮十一ようそう 中巻

二十二巻 三十五本　沙門白恵

全編片仮字にて記す ○元禄十五年三月自序まえに西都に生じて盛年より漢土の雑別と長崎の仮名志の體とならふるをもて之を門類仮十一ようそう 中巻

十巻　黒川道祐

雑別府志

山城一國のもの仮字序あり

山別仮雑別と訓ずる義を説きて漢土の雑別と長崎の仮名志の體とならふるをもて之を門類仮十一ようそう 中巻

二十二巻 三十五本　沙門白恵

全編片仮字にて記す ○元禄十五年三月自序まえに西都に生じて盛年より漢土の雑別と長崎の仮名志の體とならふるをもて之を門類仮十一ようそう 中巻

一ごとに名所古蹟等を記すれど 雑別府志の体裁にて一ごとに名所古蹟等を記すれど 雑別府志の体裁にて 雑別府志 同覧の同覧えて二十 餘霜仮名 巻首に宝永辛卯春
○此書毎巻 瑞伽林隠士 如是相自恵撰とあり
國子泰 雨林 憲の序あり 巻末に宝永 初元丹水 奇岩の隠士 碩星の跋あり
云山別名跡志 僧白恵の撰するところ 恵字ハ雪庭又 如是相山雲子と号す
姓ハ坂内代々武藤仮名 恵もまたあるよしなり 巻末の業仮 佳壮

成りて洛中より來く寓棲するもの多く佛寺と等像し
毋故喪亡するもの多く三回忌を一期とするなど云々

山城名勝志

二十一巻 三十本 岡十二鋪 大島武好

山城一國の事蹟を記したる古書は甚だ少く僅に
のこれるものも漢字交りの片假字或はひらがなのみにて
ところどころ讀難き所あり是に於て諸書を考索蒐輯して
これを編述す其引書七百十三部に及べり
○序中に寛永二年筑前貝原篤信の序ありと云へるは
○巻首に寛永二百年筑前貝原篤信の序ありと云へるは
漢文なるのみ巻尾に武好假字の自跋ありて云云

京城勝覧

二巻 一本 貝原篤信

一名を京都めぐりといふ洛中洛外毎日見物の案内京町筋の由
来洛中の名所古跡等を記したるものなり 下巻

山城志

十巻 九本 並河永

日本輿地通志畿内部六十一巻の中第一巻より第十巻に至る書
體は漢土の地志のごとく漢字まじり記事は和文体

ところどころに古歌を挿めり國ごとに一國の
畧圖を巻首にのせたるは那畧の所なり書中各項ごとに
引用する所の書名を標出せり 城池 壇廟 山陵 苑囿 百官 山川 関梁 土産
神廟 陵墓 佛刹 古蹟 氏族 建置沿革 府治 疆域 形勝
風俗 祥異 祖税 郷名 村里 公署 藩封 ○此日本輿地通志八
並河永谷称五一郎友人越前の関祖衡辞書校蒐訪しこれを
野老と訂一稿を一書成せんとするの書成るに嚮んで
疾革りし時五一郎に託して公に恩命を
蒙らしめ五畿内志を修撰せしめ業成るに及んで
巻首に名を列して祖衡纂輯丹州並河永校とあるは
是なり 巻首に上書あり○巻尾に丹州書生並河永謹上書とあり

十六巻 七本 同上

大和志

日本輿地通志畿内部巻十一より巻二十六に至る享保丙辰の序あり

河内志

輿地通志巻二十七より巻四十二に至る享保乙卯春刻

十七巻 三本 同上

十六巻 七本 同上

和泉志　　　　　　　　　　　　五巻 二本　同上
輿地通志巻四十四より巻四十八に至る享保丙辰春上木す
摂津志　　　　　　　　　　　十三巻 四本　同上
輿地通志巻四十九より巻六十一に至る享保乙卯冬上木す○已上
廿五本を五畿内志と称す○多田義俊がかや草に云並河五一
郎といふ人五畿内志といふ書を作りしく板行したり彼書誤
多し大和志吉野乃条に釋日本紀腹赤奏の故事をすて腹赤ハ肥後より
献じく吉野よりハ献せず直說釋なりしといへども師說の年中
行事にも釋にも大宝よりハ奥にあらんと壷井翁
論じをかれたりいかんや雞の說ハこちらへずもさへず摂津志に
僧の日羅の墓ハ天満に在しとあく日羅ハ将軍めさるゝ職にて僧
にハあらず日本書紀欽明の巻よりみるべし元亨釋書に僧と
せしより道春も僧のやうに神社考にかきれしハひがられ古子傳
にまどはされしなる古子傳ハ二巻の平氏傳にハ僧とハかゝず又同國名
蹟の教行寺といふ条下に蓮如此寺にて教行信證を写すとある
も非なり親鸞聖人にて蓮如にあらず其後蓮如書写の教行信證にて
ある故教行寺とハいふなるをあやまりのべたるしといへり

諸州めぐり　　　　　　　　七巻　　貝原篤信
巻之一二 西北紀行 上中下 山城西郡丹波丹後若狭西近江等の路程を記す
巻之三四五 南遊紀行 上中下 山城 河内 和泉 紀伊 大和
巻之六七 拾遺続諸州めぐり 美濃 関東より越前敦賀まで 摂州島
上郡高砂より室までを記す
大和名所記　　　　　　　二十巻 十五本　林宗甫
和州の事蹟をひろくあつめて記す此書旧名ハ和州旧跡幽考といへり○延宝
九年辛酉閏月宗甫漢字の自序に云古記二百餘部を攈摭し二十巻となすと
和州巡覧記　　　　　　　一巻　　貝原篤信
一名大和めぐりの記と称す○此書京より吉野へ往来の路すぢの名所をつま
びらかにして大和一国の名所古跡も此路程の中に載ることをすし和州にあそぶ
ものゝ此書を枝にする時ハ霊地遊歴行程里数郷名等を解して益あるべし 元禄九年刊行
攝陽群談　　　　　　　　十七巻　　岡田徯志
摂州の事跡を博くあつめ記す元禄改寅年菊池政之が漢文の序あり
巻一二 摂津國緒歴 巻三より巻九まで 山海江河市里陵等ことごとく郡名
所と名所とを以てわかちあらわす　　　巻十 古宮 古地旧屋 巻十一 神社

巻十二より十五まで　寺院　巻十六　名物　土産　巻十七　雑類　名木　名石等
元禄十四年上木す

浪速上古圖說　一巻　附図　中村直躬

神武天皇御宇より應神帝の御宇までの地形　仁徳帝御宇より安閑帝御宇までの地形　以二図ともろもろの旧神武帝御宇よりあらゝ地形のうつりうつるの状を考へ正しくしるす
寛政七年　武庫春海序　日本書紀古歌謡にくく考へ正しくしるす
寛政十二年二月上木す

難波舊地考　二巻　荒木田久老

巻首より概乃落葉　高津宮長柄宮長柄橋舊地考と記すところ乃あらくのもの以日本紀古事記日本後紀文徳實録萬葉集等以引くく考へてる説どもを以ところ乃ところ

有馬事跡考　写本　一巻　貝原篤信

津國有馬のもの説以ところ一件ところ温湯と浴せしより人くの詩歌連歌和漢の文章等以あつめ載下巻ニ有馬より近國にいたる路程以記す　但書つまびらかにしるすところ

有馬山温泉記　一巻

京都より津國有馬郡湯山へ行てところ宝永八年正月記

士峰録　六巻　三本　菅徳菴

駿州富士山ところ二係ところ詩歌和文漢文等以採録す　歌八万葉集二十一代集拾遺愚草堀川百首より慍窩道春等ところまで以のせ和文八古今集乃序　竹取物語の全文以録し　詩文八漢人ところのせり　菅氏二男由益洞雲の跋ありところ

新編鎌倉志　八巻　十二本

西山公常陽より江都ところ主ところたまふ　鎌倉以ところ名勝以歴覧したまふ古蹟以くわしく記したまふ所以ところ特ところ河井友水以書しめたまひ両友の秋巻荒村より近ところまで葡萄寺より泝く里書中ところ

淡海志（ダンのカイ）附録　一巻　写本

近江一国のもの以つまびらかにしるすところ　国号　灘の称号　諸浦舟数　土産　舊都　古戦場　和歌名所　名木　古塚　神社　仏閣等のもの以のせ　附録　近江國誌目録

共七巻

信濃地名考　三卷　吉澤好謙

此書一名科野（シナノ）考といふ信濃國の名義より古歌四十條首もしるせり或ハ方俗の談ゆゑよりおこれる事ともおほく徵とすべし編中すべて郡名事實産物等の考證載るところ舊記を按じ事跡を稽へ古今の地名を考へ古今世代の變遷をしるせり信濃の全國乃ひおほく郡ごとの圖久米路牧地の圖等あり編者吉澤好謙信州の人にて明和辛卯信濃源通親の漢字考序甲申庚寅安原貞室漢字の序甲申八年藤原宇万伎の假字序等あり

岐蘇路の記　一卷　貝原篤信

貞享乙丑のとし篤信武城より西歸の時の紀行なり江戸より武藏上野信濃美濃近江五ヶ國の驛程并に名所古蹟等の見聞をしるす

あづま路の記　一卷　貝原篤信

上層　下層　東海道　東海道　土佐谷重遠

右の兩書共に今老ます事保辛丑の年の刻

若狹（ワカヤ）郡縣誌　寫本

若狹一國乃至郡縣の沿革并に小濱城より憲松公まで三十一ヶ代のすう又若狹出産の名物八幡宮佛寺等の事跡并に別卷ゟ若狹國税所今富領主代々次第又神社佛寺什物等の事書字の異同あり○按ずるに若狹郡乃至郡名ゟ稱すべく假ゟ稱ずるハ誤なり漢土乃若那（ジャナ）漢ハ越州ゟいふ

但馬温泉記　一卷　貝原篤信

但馬城崎（キ）郡湯島の記ゟ享保十二年九月篤信入湯の節の筆記ゟ十八年十月ゟ來す

懷橘談　寫本　二卷

出雲一國のすべてをつまびらかに名所古蹟ゟ其外俗語のよりて來るところまでこと〴〵く記ゟ

…書道すぐれたるのみをもくろくろ…もうし…国府より入路なる人陸績う橘汲懐よ
…廿一所ありまもりく懐橘談…名つけ…うらうらうけ…。初
出雲十郡の図につき汲…海陸眺望の文をこれ…武蔵汲なく
郡汲…名産より…測量明石汲…備前美作汲…出
雲…までの…半実汲…大概同十郡の…
五畿外郷里の故事汲…元禄…年上梓

筑前名寄

元禄辛未九月奥字の自跋…右銘亦国の名区古人の詩歌あるもの
…十條境…詩歌集乃び古記のうち…ここに汲考索すべき…ここに汲考郡
の郷名汲此…して図…寄…深詞…半…永汲蓬軒…
…汲元禄…年上梓

石

天保五甲午正月二十九日抄出之

中村直道

名所類

名所方角抄

國々を東西南北…ちく名所方角汲…一巻 宗祇法師
今…なりまし寛文六年…ト末…

勅撰名所和歌抄出 写本

二巻 宗碩法師

山嶺 嵩等より次第…ちく類汲…ちく名所…ハいろはの…
…ちく勅撰集の歌汲…ト…

歌枕名寄

二十五巻 三十冊 澄月

此書或ハ澄月名寄と称せ…の歌汲図…ちく
…ちくあつめ…ちう枕集の…ト書のごとく載…ト略

名所類字和歌

四巻 細川幽斎

代々勅撰集より名所の…汲…ちく…

歌書一ツハ小名寄ト称ヘ一ツハ類字小名寄ト称ス

類字名所和歌集　八巻　里村昌琢

二十一代集より名所の歌ヲ抄撰シ部ヲ分ケ類ヲ立テ名所ヲ国ノ次第ニ列ス○巻首ニ名所国分図録ス一名大名寄トモ

類字名所和歌集校書　五巻

類字名所補翼抄　写本　七巻　沙門契沖

昌琢の類字名所の歌ハ二十一代集の外ニ出ス此書ハ万葉又水其餘古物語諸家の集等より抜類字名所の補翼トセシ故ニ名ノ字ヲ冠ラス毎巻ノ初ニ歌仙の名ヲ標シ其歌ノ名所ヲ類シ書入ラルル名所ノ考ヘモアルヨシ其有無ノ書シ○此書旧名勝地一覧トイフ

類字名所外集　写本　九巻　同上

右の補翼抄の外ニ考ヘ得ラレタル歌ヲ抄撰シテ名所ヲ類シ此書モ毎巻ノ末ニ歌仙ヲ標シ名所ノ国ノ次第ニ列ス或ハ古来ノ国ノ概略ニ違セル事アリ澤月名寄松葉集等ニ

考ヘ合セテ洩レタル歌ヲ抜書シ一ツノ名所ニ数多ノ歌アルヲ分チ抜ケタル歌ヲ又抜ケ（恋の山吹　みそぎ川　秋山　一ツノ歌ニ数ヶ所アルヲ皆ノ類ニ入ル）

松葉名所和歌集　十六巻　宗恵

宗碩ノ類字名所集ノ世ニ行ハルヽ歌ハ多ク類字名所集ヨリ載セ其書ニ載セラレヌ歌ヲ抜書セリ　以下異

續松葉集　四巻　同上

松葉集編輯ノツイデヨリ名所ノ歌ヲ抜集シ一頭書ニ其名ノ依合ノ事物ヲ記ス（此巻ヨリ月花ノ部又七篇載ス）

増補松葉名所和歌集　八巻　尾崎雅嘉

宗恵ノ松葉集ノ引アヤマリ多キヲ正シ百事記為集ノ新撰ヲ引ノ歌ヲ抜キ伊勢大和物語ニ出ル歌ハ勿論ノ事ナレバ古今六帖源氏狭衣栄花平家等ノ物語等ノ歌ヲ抜キ又中古ノ家集ヨリ抜キ近代ノ家集ハ見ル限リ抜キ又名所ノ歌ヲ抜キ洩シタルヲ補ヒ又名所ノ事ヲ記シ月ノ部ノ次ヲ改メ

のうち今せの夜鶴すう宗祇等秋
ひとつ会の席なるゆへ名所山のうち会百の中ハ名所山
一〇巻尾く渓土の勝地秋をめでうたふ詠歌より名所へ引ものす

新撰松葉名所和歌集　二巻　同上

類字名所陰月名寄松葉集等よりもせる名所をえらびて四季の新名所牛瀧山　信貴山　飛鳥山　品川　隅川等秋ある秋ハ秋近代詠家の集より考へこれらぐく引書秋ハ筆ふでまかせうたへるものす

名所小鏡　一巻
歌林名所考　五巻　西順
歌林名所追考　十二巻　高野直重
袖珍歌枕　四巻
名所題林　五巻　岡西惟中
枕右抄　十三巻
歌枕秋の寝覚　二巻　有賀長伯

増補歌枕秋の寝覚　八巻　同上
名所にいろ川　一巻　加藤景範
世々乃ちり　十二巻　有賀長伯
世々乃ちり追加　一巻　同上
歌林草分衣　一巻
和歌名苑録　字本　三十巻　瀧本伊奈
和歌名所指南　一巻　二本
名所和歌採本求源抄　二巻
知事抄　二巻
勝地吐懐編　二巻　秋門繁沖

類字名所集の秋どもハ国ごとの名所ゆへ秋ハ漏脱の名所のあるハ中おちうち漏ごと多かるゆへ秋ハ小異ありやうに詠じくうたふ秋ありたとへバ小野田の松田の松のたぐひ　○元禄年

繁沖の真字序あるなり宝治四年伴高蹊再び改めて校訂せる序あり

勝地吐懐編異本 写本　四巻　同上

判者より八題考按を附し巻ごとに一二代集所載の名所和歌を国ごとに分ち部類せり名所ごとに題あり名所ごとに詠者の名を記せり又名所ごとに国名を記せり名所の名は筆次第無論国ごとに四季恋雑の順序にあらず

今案名蹟考 写本　七巻　岩橋秉栄

書体吐懐編に似ず類字名所集の風に相近し

大和名所和歌集 写本　一巻　長景福

大和一州の名所和歌を部類せり

伊勢名所拾遺集　二巻　四本

勢州の名所和歌を部類せり

紀路歌枕抄 写本　七巻　二本

一巻より一部の名所和歌をあげ部類せり

最勝四天王院障子和歌 写本　一巻

建保名所百首和歌 写本　一巻

内裏名所四百首　一巻

建保名所三百首抄　四巻

新内裏色紙形和歌 写本　一巻

右

天保五甲午年二月二日抄出之

中村直道

随筆類

東齋随筆　一巻　一條兼良公

後成恩寺兼良公の随筆にして和漢の雑談をしるし給へり本朝にて随筆と号せるもの此書をはじめとす

榻鴫暁筆　写本　二十巻

此書ハ皇國の故事雑説より外漢土天竺の事をも書しるせる随筆なり全部ひらかなにて作者の名ハしるさゞりける○按するに此書一名暁筆抄と称す一條禅閤兼良公乃作なりといへる説あれど大なる誤なり何人の作なるをしらずといへども此書十巻目に云下ひらせ初家勝ふく一夏むすびし事を作りし三段これど兼良公にハ猶ふさはしからぬ事ありけれど書中にのせたるところ尤もつまびらかなり文明の比の僧の著作なるべしといふことなりてと○此書の類号のうち戊狩のはじめ序の中にも云ひたる事ありされどそれも猶いまだつまびらかならずや明らかならず略しぬ　以下略

耳塵（ニジン）　写本　一巻

東山慈照寺のことをしるしてまた其つぎに記したり　以下略

老人雑話　写本　二巻

巻首ニ云老人ハ江村専齋なり諱ハ宗具醫を業とし初加藤肥後守に仕ふ正親町院永禄己年に生れ寛文四年九月没す壽百歳に満てり○坂口法眼の漢字の跋に云我外祖父専齋翁曾て見聞するところの事實の雑話ハ父の執伊藤坦菴先生聴きとめすなハちこれを記しまた筆を加へて家に蔵して老人雑話といふ先生姓伊藤諱ハ宗恕坦菴ハ其號なり寶永戊子八月卒す年八十六今家君手自これを浄写す時に八十五にして喜び以て跋する寛永庚寅孟秋坂口郁謹書○正徳三年癸巳暮春武陽滄洲の假字序に云我曽祖父何松菴先生ハ一形縁ハ朱子學に生れ寛文四年甲辰季夏下旬六日に没す二とせあまり百歳に満てるに医術を以て京師に居住せしかし小帝代の長者なりとて勅して杖をたまふことあり〔三百の和哥并に辞世の歌を添へ〕将軍家光公皇族の伊藤宗恕にしばしば一冊ありて世にあらはるゝ我これを老人の話すとてわしく閑話の友とす古人の此集するのことし宗恕

考人の編集なり○巻首に自序あり○末に跋あり

醍醐随筆

二巻四本　中山三柳

三柳ハ京師の医者なりしが詩文和歌ともに達者なり

小ぎつね草

紹益俗称庄左衛門　本姓佐野氏

ありとみてくわ初秋なよ○下略

二巻　佐野紹益

平阿添先悦の序あり　茶事鞠の心得

云々水尾院仙洞より修養の法伝勅問あり○伊藤長胤の益軒録を参考す

生平唯一の些乃字も持たず○又些末なる事も又些末の如く

鳩杖銀茶酒など伝賜ありしとや

東見記

昔吉田兼敬張掖楽を学びて二段小さくところどころを倭琴にて弾ず二段小さくところどころを倭琴にて弾ず

二巻　人見卜幽

人見卜幽　名は東一字は子明通称は市右衛門

東見錄と号す　初め京師に住し後江戸に移る

寛文二年懋齋跋あり　日本二

松出生より長澤道寿の門人なり儒教伝之宅道七

歳にして詩書を読文十歳にして木下○梅もる小川随筆の中山

三柳ハ土佐の道寿の弟子なり○渡辺了伯の医門氏口より伝授

しくありしが病気にかかりしかば了伯医門をさりぬ

かくて門弟なくして門弟なりしかども良医のうわさ

聞えて諸侯の招聘あまたに及べり○了伯医門を去りて

松水尾院の侍医となる○水尾院の御代に三付筆伝合せて

伝授せしとぞ○水尾院三柳醍醐へ山荘を建て

今伝わりて一巻の抄製となりされ

年山打聞 写本
年山打聞拾遺 写本
世に流布の本に漏脱しるものゝ
ゝゝつまびらかならざるの処を補ふ 松浦武四郎記
新安手簡 写本
新井白石と水府の安藤洞と
交際ある往復書簡の中和漢の書籍の事
駿墓雑話 五巻 室直清
逸話 二巻
一名可観小説ともいふ 駿墓自記の如し
折たく柴の記 二巻 新井君美
梅すゝの日記の名々 ゆりひめ
うまし〳〵ものゝ名称 ゝゝ

なでしこ 二巻 雨森東
雨森芳洲の随筆なり ○室鳩巣の跋あり
一時軒随筆 二巻 岡西惟中
和歌連歌の事條々 ○惟中の跋あり
多て枕金の紙に筆を染るものゝ
續無名抄 三巻
惟中の随筆なり 長明の無名抄にならひて
一枝軒随筆 写本 五巻 野村尚房
尚房平生関する所の書の抄出
又之称字中ゝゝ 完庵のゝゝ
阪のゝゝ 及び地下人の歌
人伝称権六一枝軒と号す 梅月堂宣阿の門人と云
春墨獨語 写本 二巻 太宰純

初め歌道のみ故實ニ泥み一字ニ句を
衣服等の事に故實ニく古今を變易ぶり

鞠軒小錄 寫本

一巻　伊藤長胤

東涯の假字の随筆なり假字の自序ニ云昔楊子雲四方言語の異
同ニ就あつめ鞠軒絕代語といふ八使の車なり皇華
の使四方へ行く其國くの方言を書とゞめくるなり予
幼ふして先子ニ從つて四方の士の來つて集る小其國くの山林丘陵
等木鳥獸の奇異珍怪なり説明覺書記し一予が
世ニ及ぐ笑ふ事ありとも予自ニ書集めて
鞠軒小錄とこく名世子孫乃至ふとこゝろざしの
のみこゝろ元祿十四則巻首ニ記ぶり奥州壺碑のみ故ありぶり

河社

五巻　沙門契沖

そゞめく河社のみ故出ぬれどうけひの拍子ニ八集歌乃字ニ八非ず
移くのものとも古今集等のみ事ニ
一巻　同上

雜記 寫本

これも同し假字ながらく古のみ
巻まで悉備の事ニ雜注あり

雜記 寫本

一巻　同上

此書八何とも名ゐる事なくさまぐ
雜ニ記ぶるゆゑ乃名ぞ

又故櫻 寫本

八巻　隆德

春夏秋冬花鳥雜上下ニ分く巻の名ゐる子和漢の名書の抄出ぶり
事なり事條の頭萬國寶易朝臣の門人申齋隆德とり人の假字
なり隆德著ハもと二万百人一首両底記一巻のみ

ときすぐる

一巻　中井誠之

中井秘菴より此の假字なり自序ニ云人乃二ぬるぎりハひとうこそ
なりけれ八ちんりきさまをかへ
ありくとも低くるりくとつくべく
かうもつきつくらるゝ。中井氏播の龍野の人ニ。

二川隨筆 寫本

二巻

此書ハ京師の医師山川素石細川宗春二人乃同著なり名て山川
隨筆と号す素石ハ信宗と号し宗春ハ季明と号せり　下畧

鹽尻　写本　百巻　天野信景

此書もと千巻に近かりしを散逸してやう〳〵今存する所
百巻なり合巻七十冊の中わけ〳〵ハ三十八冊のもあり巻の
はじめにいせものがたりに塩尻のやうにとありけるをとりてなづけたり
まへがきにいはく伊勢物語に富士乃やまを塩尻のやうになんありけると
いへり歌人のおほかたは此所を秘とす予海濱に於て塩竈の煙
を見しに海民塩をやくに塩竈に砂をあつめてうづたかく堆くせし畦
を作す潮水来りて砂畦をひたす汐干て後砂畦をくずし日にさらす
しくつゝ山様を作り日にさらすこれを志保之利といふ実に
冨士の形に似たり海邊の俗語にて秘とするにあらずされど歌者
京にありて海邊のことをしらずかくいふことなかりしを
伝へしもの秘しくこれを伝へしなるべし　下畧

南嶺子　四巻　多田義俊

義俊後に桂秋斎と号す南嶺ハ其別号なり此書ハ神道なる
國学の事を種々記る所の書にて随筆なり　以下畧

南嶺遺稿　四巻　同上

書簡上下同じ

秋齋間語　これも同じ随筆なり　四巻　同上

ちぐや草　写本　一巻　同上

これは同じたぐひの随筆なりしをもじりてちぐやハ茅草なれバ
そ作りけるにやされど[illegible]ハちぐやとも茅の称しるとふをとりて
つけたる也かく久しく次の称への梅実熟侍弘来の事
和書のうち享保二年熱田社奉納の書乃写なりし也　以下畧

ぬなハ草紙　写本　三巻　同上

これも随筆なりしをこと先に蓴菜の事をかけるゆへぬなハ草紙と
名づく　下畧○梅花のこと此書のすところ南花を称するもあることあり

宮川日記　写本　二巻　同上

此書ハ慶安二年二月ニ六日ヨリ二月十六日マデ伊勢ヨリ京ノ間ノ事ヲ
遊和草　字本　二巻　同上
享保十九年ノ秋大和郡山ヨリ初テ江戸ニ登ル時ノ紀行ナリ
續遊和草　字本　二巻　同上
享保十九年亭樂ヨリ亥ノ春江戸ニ登ル紀行ニ書ク所ノ詩歌ヲ集ム
情蛉ノ随草　五巻　丹羽桃丸
著者ノ高義後ノ侯ニ侍シ門人東武ノ丹羽桃丸ガ記ス所ノ事ナリ　下冊
春湊（ソウ）浪話　字本　三巻　土肥経平
著者種々ノ事ヲ記シ又ハ人ノ書ク所ノ考按ヲ載ス　下冊
撈海一得　二巻　鈴木棋卿
上巻　五十九條　人名ノ名目ヨリ都テ平大抵上古ノ事
下巻　六十三條　永樂錢ノ事ヨリ唐物ノ匂香ニ至ル　下冊

行餘隨筆　二巻　杉屋壹助
和漢ノ正史野史ノ中ヨリ考ヘ得ル所ヲ記ス
寒話　字本　一巻　草賀親賢
草賀ノ與ニ軒ノ記ノ述懐ヲ載ス又冬夜客ト談スルヨリ以下ハ
ヨロヅ雑話ヲ記ス
久保（ノボ）之取帳（スガヒ）尾　一巻　入江昌喜
此書ハ後ノ公私ノ取書ヨリ抜書ス
うらの浪乃考なども此もの也
國學忘貝　三巻四本　森長見
讀牧森助左ヱ門ト云人皇國ノ古ノ政事ヲ論ジ又ハ古ノ歌ヲ評ス
玉勝間　初編　三巻　本居宣長
書體ヲヨク改メ訂正ヲ加ヘ又ハ記録ノ考ヲ増シ全部ノ初ノ編ヘ改ムル
ヒ漢文ヲヤハラゲ書ニ改ムルヿ　下冊

玉くし　二編
同　三編
桂林漫録
東都中良屋氏又著ところの随筆なり
閑田耕筆
高階氏なる人の所の雑記閑田耕筆と号す下巻
巻一　天地部　巻二　人部　巻三　物部　巻四　事部

右
天保五甲午二月九日抄書之

中村直衛

雑書類

江談　写本
大江家の人々の談話なり江匡房卿
号す漢学の博士なり。極めて小冊の雑記なれど
其発端あるもの多くして備考とするに便あり
くわしく述備考とするに便あり
三巻

古事談　写本
六巻
第一　王道后宮　第二　臣節　第三　僧行　第四　勇士
第五　神社仏寺　第六　亭宅諸道　かくたぐひ部類ちがふ
第一巻の

…ふくろ草紙の釈の…　…信行邪念章…
…女子教訓…　…道命阿闍梨初名或郎…
…鳥羽法皇御笑談の…　…條殿百ヶ條のおもむき…

續古事談　写本
第一　王道　后宮　第二　三巻
第三　臣節　第四　雑事　書籍上に同

古今著聞集　二十巻　橘成季（たちばなのなりすえ）
筆者狂歌の祖なれハ詠歌等ハ…
…ものがたりの…
…序文に…

新著聞集　十八巻　六本
近代見聞の…　…寛延二年己巳九月刊　ツト界

撮壌抄　七巻　十五本　行誉
僧俗の故事和漢の事実五百二十六箇條図を以て…　文安二年　ツト界

塵添撮壌抄　二十巻　十五本
…筆者世俗の一とその条を…　…
世諺問答　三巻　一條兼良公
…

齊東俗談（せいとう）　七巻　…
本朝俚諺　十巻　井澤長秀
諺草　七巻　貝原好古
日本歳時記　五巻　同上
和事始　六巻　同上
漢事始　六巻　同上
廣益俗説辨　五十一巻　井澤長秀

新俗說辨　五卷　同上

贍說辨　字本　二卷　小山儀

俗說以和語の古き考へらるゝ事ども記しとゝろ多く明洁乃ち漢字を借りて舉ぐる小山儀吾浪華の人なり著すところ竹取物語ありと云ふ百五卷ハ十一本　寺島良安

和漢三才圖會

顧東(イセ)語ゲ三才圖會ニ云ク

倭國乃たりもろべきる事ひく和漢唐物の図ありて

第一卷より第六卷まで　天部　時候曆占共に此部ニ收ル

第七卷より第五十卷まで　地部　居宅草木造醸類此部ニ兼收ル

第五十五卷より第百五卷まで　人部　器財禽獸魚虫乃至此部ニ兼收ル

卷外一冊の小目錄ハ附すいろはの字ハ引くうたの部類ハ一云ヘて搜索ニやすしと。正德三年三月朝散大夫大學頭藤原信篤序　同年六月前大膳令和氣伯雄南序　次ニ良安の自序ありて卷末ニ正德癸巳陽月四位大藏卿清原定通の跋ありて

大東世語　五卷　服部元喬

皇國乃諸書ニそくる故事名言ゟ和漢文ニ譯しく其體ニ倣ひ劉義慶が世說ニ擬しく作れり　下ニ

皇朝事苑　四卷　竺常

此書皇朝の事實ハ古書ニ考へ漢字のごとくニ類ひて下ニ

善隣國寶記　三卷　鳳溪和尚

此書ハ皇國ニ漢土及び朝鮮和漢通信の由來ハ上卷ニ神代のことゟ始めて神代の文字ハ譯せずしてのぶるハ北高親房の神皇正統記ニ漢字ニ通ずるのごとし次ニ當仁大皇十八年ニ始めて漢土ニ通ずるゟ後の事ニ及び朝鮮と往復の書簡ハ下ニ

代作の文ニしてくうたの部類ニ入れず　此卷の末ニ

中卷　上卷の事ゟ漢土ニ始まり朝鮮往復の書簡ニ及ぶ

下卷　彼我往復の書簡の別幅ハ此の卷ニ收めず　五山の僧侶

○文化丙戌八月十日泉南臥雲山人周鳳瑞渓自序 丁卯春西山塞馬
閑人跋あり 板の印文中殿○此書の撰者桐園寺鳳渓和
尚諱玖周鳳といふ日野進大臣兼宣の子なり無求和尚乃弟子なり
無求諱八周仲夢窓國師の末流瑞渓一切経七千餘巻乃
抄出七巻あり又該書の抄出二百巻あり明教大師と号す此書
天龍寺慈済院虎林と出く板行す跋八虎林と

異稱日本傳　十五巻　松下見林

異邦の書ゟ本邦のゟ以載るものすくなからずといへ共中ニ偽
多かやまり多くしてくわしからず此書ハ松下西峰
いろく漢土朝鮮の該書のお邦の事以のせるものをあげて
邦の書ゟ以考へあらはせり○此書ハ上中下三巻
なりうち上巻ハ漢魏晋宋以巻以下巻ハ中巻以八巻ゟなりて
上巻ハ漢魏晋宋齊梁隋唐五季宋元中巻ハ明下巻ハ
新廬の書以のせたり　中略　已上百二十六部其餘本朝の百書数十部をしるしもと記す
○按ずるに本元高の好青館漫筆ニ同童子問ニ中華の書の日本を稱する
ハ皆異称日本伝の如き神遺を引ることく称せり此
別ニ百二十餘部を挙すこれも西峰氏の如きいまだ戒書ゟず他有以候ハ

駁戎慨言　四巻　本居宣長

本朝改元考　一巻　山崎嘉

本朝事跡考　一巻　林春斌春徳両人の著ところといふ

日本遷都考　一巻　平本定智

往古ゟ已來遷都の次第以ゟて屋島吉野等以降ゟて
作者の変ぬるゟ一定智ハ林家の門人ニ

七夕考　字本　一巻　跡部光海翁

本朝いつゟへゟり七夕ニ星以祭ゟつゟく和漢の故事を採
以考へゟて一書ニ成加流神道のゟとあく

國號考　一巻　本居宣長

眞暦考　一巻　同上

三大考　一巻　服部中庸

玉くしげ　一巻　本居宣長
宇比山踏　一巻　同上

此書ハ初学の学ビまなびに成ル
宮職の事ハ職員令ニ
掌着おろく職原抄ニ
ひもときおれしかくかく
おまふものつくりいう
うわ添より明らかなる
なれもろくわ御式の事ハ
江家次第世よおもへと
うわるものども
戸われ儀式典めでたや
すくよみとくしかく
まもらおろくハ中古の
く考みるへハすくれ
なりろく考つゝ此
山物此二書ハ
律令官職儀式

和学辨　一巻　藤貞幹

本朝の古書ともの中ニ
説ありて世紀枝葉器就日本史
ひろまりなど成ル
ゆゑ書前ニ東海平維章著とも
衝口発　写本

皇統　言語　姓氏　國號　神璽　年号　容飾　衣服　喪葬　祭祀　拍手　和歌
詩賦　國史　制度　等ハ佛ニ
ちかきハ
韓のまゝ
ゆゑ
鉗狂人　写本

此書ハ蒙齋の衝口発ニ
あらん
一巻　本居宣長

彼一

好古小録　二巻　藤貞幹

寛政六年六月出仕の命ありて御徒頭に任ぜられ、ほどなく御使番に転じ、ついで目付に進み、従五位下摂津守に叙せらる。

好古日録　一巻

和漢硯譜　三巻　石希聰

集古十種

銅器　印章　硯　楽器　甲冑　馬具　刀劍　弓矢　旌旗
鐘銘　碑銘　扁額　小倉色紙
已上既に刊行ありし其目録の大概如左

直道

元創より元禄廿年上天子より下連歌師よりして歴代の武家公卿と云ふまで年代次第に次第に出し、歟隋を使も

古押譜　六巻七本　松崎祐之

自序 上書 元老源允伊州牧君事跡視の暇古今を考へて四方の歴観に備ふ 古岡箸跋 時に西征乙未歳冬至日洛陽松崎祐之芝濱の邸舎に書す

古今茶人花押藪　一巻

萬寶全書　十三巻　菊本嘉保

古今名物類聚初編　七巻　陶齋尚古老人

同二編　五巻　同三編　四巻　同四編　二巻　同上

古錦繡譜 寫本 一巻
和漢書畫一覽 一巻
雅遊漫錄 七巻 大枝流芳
貝畫浦の錦 二巻 同上
薫聚類抄 寫本 二巻 寂蓮法師
六くさ乃記 寫本 一巻
五月雨乃記 一巻
五月雨乃記考 寫本 一巻 江田世恭
雲井の春 寫本 一巻
鞠乃書そう鞠の故実そしるせる
きくの記 寫本 一巻
鞠の記そう 近近院実澄公乃作そう

白鷹記 寫本 一巻
二条良基公のふれの文そう 扶桑拾葉集ニ收めそう
嵯峨野物語 寫本 一巻
鷹乃故実ふそう 前ニ二条良基公乃作そう 扶桑拾葉集ニ
載そう

犬追物語 一巻
此書ハ正保四年薩州侯武州
深川仏林寿齋の筆記せそう
本朝西傳 四巻 狩野永納
本朝上古より二条家乃ふくへこの伝
法故実等そ口づく漢文そう 巻末ニ掛物 軸物のす
そう巻首ニ永納の自序あり
本朝書籍目録 寫本 一巻 大外記業忠
俗ニ御室書籍目錄と稱そう 大外記業忠ふめ仏纂そう
日本書籍考 一巻 林道春

日本紀万葉集橘春暉
仮名書数多しといへども典書の大全ならず羅洛子の集まりし
一巻　同上

経典題説
経書の名目挙しを書籍考と合刻せり仮名書の大全ならず
十巻 五本　幸島宗意

和板書籍考
三巻　中村富平

辨疑書目録
三巻　中村治重

書籍名数
十二巻

合類書籍目録大全
三巻　藤原貞幹

國朝書目
四巻　尾崎雅嘉

和漢群書作者目録
二巻　尾崎雅嘉

世俗諺深秘抄 写本
一巻　僧正宣守

海人藻芥 写本

此書ハ中御門中納言宣方卿の仰にて惠命法僧正宣守乃俗名なるよし
く誰くの故実なども紙ごとに記されたり 以下異

二巻

国花友 写本

本朝書籍目録 此書紙数鎮の仰にて梅花亭山井崑山校訂のものなるよしにて国花の名ところ〴〵に見ゆ書も皆然の仰にて仰ぐ人の名ところ〴〵に見ゆ
るよし松尾詮月房慶政の歌の歌ところ〴〵入家後れ入明惠上人の歌ところ〴〵入
ころ仰ぐ道心前ところ長明惠仰ぐ人の集ところ〴〵と
諸ところ国花の名ところ〴〵

二巻　一條兼良公

語園
漢土の故事を語書ふ標出の譯したる出ところ巻末に桃華
玄人抔ところされふ都筆先人ハ第良公乃別号ふ寛永四年刻

新語園
十巻　了意

本朝語園
第良公乃語園ところひく漢土の故事ハ仮字ものそもふ
十巻

北畠親房卿の城の援兵救請といへども今こゝに至らず武家万日よく急の攻城治定こゝに至らば救の兵救請んと欲す白川結城大藏少輔親朝へ送て曰ふ

七武論　一巻　林春齋

弘文院林氏の作りて假に七子の名以設けて義師清盛相國平氏信長秀吉今代湯武の武と用ひもつて湯武にもまさる事を論ず

仲國秘傳集　写本　八巻一本

筆者すべて鳥の足今やう鳥の病ひなどの薬方などの事なり

百問答　写本　十八巻一本

巻首に安國見心百問答とあり安國見心と馬の病の事以論ずり

問答もつて巻末に仲國の判ありと

翁問答　二巻　六本　江州の陽士中井與右衛門の作なり

點例　一巻　貝原篤信

和讀要領　三巻　太宰純

初学のもつて漢文の書をよみ捷径となすべき和語の法以古今十九首をもつて例となしこれ以助字のもつて和語の法以古今十九首をもつて例となしこれ以助字のもつて和語の法以古今十九首をもつて例となしこれ以助字

本朝學原　一巻　松下見林

本朝の漢土の学問の伝りて異学渓壑のものおのおのその門戸を立てその説を唱へ以て世を惑すの弊害の注釋浪華抄九巻あり

和漢名數　一巻　貝原篤信

增補和漢名數　二巻　同上

續和漢名數　三巻　同上

新撰菟玖波集　二十巻十本　宗祇法師

巻之一より巻之六まで　四季連歌　巻之七　神祇　巻之八　釋教　巻之九　恋上下　巻之十一より巻之十六まで　雜　巻之十七　羇旅　巻之十八　賀　巻之十九　連句　連歌　雜句　巻之二十　發句

假名真名の両序二条良基公の作也○奥書にも菟玖波集可被准
勅撰可有御存知之由　天気所候也　延文二年後七月十一日
左中辨時光　謹上　刑部卿殿　追申　依武家奏聞如此御沙汰也云々
○巻末に作者数十人の爵里をしるす○或云　桜井基佐は浩湯の人
剃髪して永仙と号し連歌をよくす　宗祇宗長同時の人なり　宗祇新菟
玖波集を撰せられしに基佐の句を入られず　これを憤りて中にも
ちりうく宗祇の句を嘲哢するやうなる誹諧を書しくとこ

遥見筑波鈔便入　不論上手与下手　下略

けふよくのほりて見るに山和歌の序には違有れとも
○さはれ菟玖波集一巻あり因て此書を新撰と称す

犬筑波集　一巻　山崎宗鑑

宗祇法師の筑波集に擬して誹諧の連歌をあつめたり

新犬筑波集　十巻　北村季吟

宗祇の筑波集の書体にならひ宗鑑の犬筑波にならひてかきあつめ
誹諧の連歌をあつむ季吟の自序あり

筑波問答　写本　一巻　二条良基公

連歌新式　一巻　二本

無言抄　二巻　三本　木食上人應其

此書連歌式目の指南　いろはの詞四季の詞其外あるまじき詞等を
あつむ　木食上人應其慶長のはじめの作也　以下略

縷紅生抄　一巻　遊佐好生

縷ハ字書に一元両手也と注あり　此書巻首に奥序　玄形汲翁すと
ありしく一席に詠すらの句をうつしてよみやすからしめるに生れ
其のるよりいろくろうるす〜譯を　元禄十五年仁庵の遊佐次郎
左衛門好生の詠ずる和漢の例を引てこれを證す好生の自
跋にも異例の多きにハたおく縷生するものあまたハらの父母親族も
まさりし和しくいとくしく人まことに此用ゐて八倉部のてよるの
倉部にそハ一句によることはいらうれハ人ハ一人何くらひとう人のた
まくるとけもなどいはくらるハ人もまじとらうゆとらふほとされハ
一句もよろくは書物を撰ひたりくせるほとくしらうかんとわつひ得れど
全体よりまれだ力までなくすてくすのまてを得の今年近にの至の

農業全書　十一巻

筑州後學宮崎安貞編録　貝原樂軒刪補　○樂軒ハ篤信の名乗り　中略

○此書著述の事篤信ここに農事に志ありて年久しく心を用ひ

菜譜　三巻　貝原篤信

地錦抄　二十巻

櫻品　一巻　松岡玄達

怡顔齋　松岡玄達の名乗りなり　其由緒未見

梅品　二巻　同上

春草　字本　二巻　伊勢貞丈

夏草　字本　一巻　同上

秋草　字本　三巻　同上

冬草　字本　一巻　同上　此四部を合せて四季草と称す

菅像辨　字本　一巻　同上

本朝事始 写本
　巻首小萍給事法官信西撰と云ふ
将基駒之記 写本
詩仙堂志
圓珠経 写本
　本邦にて人へより作る偽書の経なり
令世才
　趙註孟子乃古本乃ち史記の命世之字を作る外題とも乃ち ウト書

右天保五甲午年二月十八日抄出之

中村直道

二巻 一本

一巻　水無瀬兼成
四巻　三橋成烈
二巻

六巻

群書類従目録

五百三十巻 六百三十六本

江都の塙検校保己一これを刊して藏刻す世書漢土の叢書の類にして
皇國古今小冊の書一千二百七十三種あつめ分て三十五冊とし一目録一巻を以附す其類次の左のごし

神祇部 七十種　帝王部 三十六種　補任部 二十七種　系譜部 二十種　伝部 二十一種
官職部 八種　律令部 六種　公事部 五十五種　装束部 二十二種　文筆部 三十四種
消息部 二十一種　和歌部 九種　連歌部 四百種　物語部 二十種　日記部 八種
紀行部 三十九種　管絃部 二十二種　蹴鞠部 八種　鷹部 十種　遊戯部 十七種
飲食部 十三種　合戦部 六十三種　武家部 七十七種　釋家部 七十九種　雑部 百七十八種

巻首一至巻首二十八　神祇部 二十八巻

皇太神宮儀式帳　止由気宮儀式帳　太神宮諸雑事記　神宮雑例集

太神宮例文
内宮長暦送官符
内宮假殿遷宮記
治承公卿勅使記
百老口實傳
詔刀師沙汰文
八幡愚童訓
高宮假殿遷宮記
小朝熊神鏡沙汰文
宗清法印願文
石清水宮畧縁起
賀茂祭繪詞
後伏見院御願書
春日小社記
宮寺縁事抄
大和神社注進状
春日神木入洛記
明德放生會記
北野古縁起
廣瀬社縁起
外宮嘉禄告祭記
貞和御飾記
天満宮託宣記
同假字縁起
賀茂望太神宮記
神鳳抄
廿二社本縁
菅家御傳記
春日験記
神名帳頭注
最鎮記文
賀茂雜記
春日社記
榊葉日記
大三輪神三社鎮座次第
日吉社神道秘密記
日吉神輿入洛記
兩聖記
菅神授衣記
菅家御傳記
豊秋津島卜定記
梅城録
伊豆國神階帳
大日本國一宮神名記
上野國神名帳
尾張國神名帳
藤森社縁起
熱田宮寛平縁起
竹生島縁起
走湯山縁起
造殿儀式
箱根山縁起
太神宮參詣記
八幡御幸次第
太神宮諸神祕百首
雲州樋河上天淵記
八幡社參記
平野行幸次第
春日社參記
卷第二十九至卷第四十三　帝王部　十五卷
莊柄天神縁起
宇都宮大明神奇瑞記
神皇正統記
松浦宮本縁
續神皇正統記
椿葉記
神馬引付
皇代記
殘祚部類抄
日本紀竟宴和歌
天祚礼祀職掌録
本朝世記　殘篇
皇帝記抄
元德舞御覽記
六代勝事記
同真名記
書字山行幸記
花御所行幸記
室町殿行幸記
同
天正廿年行幸行列
御幸始部類記
北山殿行幸記
永德以下行幸勅例
聚落第行幸記

後光嚴院御幸始記　天治高野行幸記
建長賀茂御幸記　文應石清水臨幸記
弘安石清水御幸記　延慶八幡御幸記
應永御幸記 七十丁

卷第四十四至卷第五十九　補任部　十六卷

齋宮記　齋院記　攝關補任次第　雜官補任
職事補任　藏人補任　樂所補任　將軍執權次第
足利家官位記　關東評定傳　若狹守護職次第　同今富名領主次第
類聚大補任　豐受宮符宣補任　熊野山別當次第　鶴岡社務職次第
同御厨司職次第　同執行職次第　同擧哲職次第　同執事職次第
僧綱補任　僧官補任　護持僧次第　東大寺別當次第
天台座主記　東寺長者補任　仁和寺諸院家記

卷第六十至卷第六十三　系譜部　四卷

皇胤紹運錄　諸門跡譜　坊官系圖　中臣氏系圖
大中臣氏系圖　菅原氏系圖　大江氏系圖　橘氏系圖
紀氏系圖　小野氏系圖　高階氏系圖　清原氏系圖
中原氏系圖　小槻氏系圖　和氣氏系圖　丹波氏系圖
安部氏系圖　加茂氏系圖　豐原氏系圖　巨勢氏系圖

卷第六十四至卷第六十九　傳部　六卷

上宮聖德法王帝說　太子傳補闕記　大職冠傳　武智麻呂傳
和氣清麻呂傳　田村丸傳記　白箸翁傳　外院小傳
三十六人歌仙傳　中古歌仙傳　日本往生極樂記　續本朝往生傳
仁和寺御傳　名匠略傳　鑑眞東征傳　相應和尚傳
慈惠大僧正傳　道場法師傳　性空上人傳　婆羅門僧正碑文

興正菩薩傳

卷第七十至卷第七十四　官職部　五卷

官職秘抄　職原抄　百寮訓要抄　百寮和歌

官職難儀　女房官品　任官勘例　任太政大臣記

卷第七十五至卷第七十八　律令部　四卷

律疏　殘編　律裏書　金玉掌中抄　裁判至要抄

法曹至要抄　令後成恩寺殿御抄

卷第七十九至卷第百十一　公事部　三十五卷

內裏式　新儀式　本朝月令　雲圖抄

九條殿年中行事　小野宮年中行事　建武年中行事　年中行事秘抄

年中行事歌合　神祇官年中行事　東宮年中行事　三節會次第

釋奠次第　建久五節記　綾小路俊量卿記　朝旦冬至部類記

後鳥羽院御時作次第

永仁御即位用途記　文安御即位調度圖　後二條院御即位記　正親町院御即位記

大嘗會御禊部類　康治大嘗會記　延慶御禊行幸記

永享大嘗會記　大嘗會御禊行幸節下次第　正安大嘗會記　永和大嘗會記

御讓位部類記　寬元御讓位記　長元大嘗會御屏風本文

天皇冠礼部類記　永德御讓位記　天皇御元服部類記

東宮御書始部類記　主上御元服上壽作法抄　立坊部類記

叙議要抄　上卿故實　作法故実　四節八座抄

賢者秘抄　羽林要秘抄　新任雜官抄　結政初參記

內局柱礎抄　蓬萊抄　夕拜至要抄　柱史抄

保元四年大間　清獅眼抄　江家次第抄　除秘抄　蟬冕翼抄

卷第百十二至卷第百二十一　裝束部　十卷

雅亮裝束抄　助無智秘抄　飾抄
唯心院殿裝束抄　道通院殿裝束抄　次將裝束抄
鳶衣抄　布衣記　永綱裝束抄
物具裝束抄　衛府具抄　深窓秘抄
袷帷子着用時節　裝束寸法抄　裝束裁縫秘抄
御禊行幸服色部類　諸鞍日記
卷第百二十二至卷第百三十七　文筆部　十六卷
懷風藻　凌雲集　文華秀麗集
扶桑集殘篇　本朝麗藻　無題詩集
田氏家集　菅家後集　江吏部集
雜言奉和　粟田左府尚齒會詩　賦光源氏物語詩
應和美努岑宅詩合　永承侍臣詩合　天喜殿上詩合
泥之草　續千字文　富士山記
銅雀研記　巨房卿暮年記　遊女記
浦島子傳　續浦島子傳　玉造小町壯衰書
作文大體　童蒙誦韻　康和三年猟媚記
卷第百三十八至卷第百四十五　消息部　八卷
雲州消息　貴嶺問答　十二月往來
異制庭訓往來　遊學往來　尺素往來
山容往來　後花園院御消息　西行上人消息
越部禪尼消息　東野州消息　東素山消息
書札禮　今川了俊書札抄　大館常興書札抄
女房筆法　新十二月往來　釋氏往來
卷第百四十六至卷第三百二　和歌部　百五十七卷　後照念院殿裝束抄　三條家裝束抄　裝束雜事抄　撰塵裝束抄　女官飾抄　經國集殘篇　都氏文集殘篇　法性寺殿御集　天德鬪詩行事略記　資実長兼百番詩合　定家卿消息　每月抄　消息耳底抄　書札作法

拾遺和歌抄　後葉和歌抄　續詞花和歌集　玄玉和歌集
現存和歌六帖　秋風抄　雲葉和歌集　新和歌集
續門葉和歌集　續現葉和歌集　臨永和歌集　藤葉和歌集
玄々集　今撰和歌集　柳風和歌集　新撰和歌集
金玉集　三十六人撰　後六々撰　新三十六人撰
為家卿千首　師兼卿千首　宗良親王千首　為尹卿千首
文明御着到千首　白川殿七百首　亀山殿七百首　堀河院御時百首 称名部百首
永久四年百首 称名部百首　久安百首　正治院百首　建保名所百首
弘長元年百首 称七玉集　丹後守為忠家百首　本摧頭為忠家百首　句題百首 称五玉集
朗詠百首　俊成卿五社百首　國冬朝臣祈雨百首　為兼卿鹿百首
後成恩寺殿南都百首　道助法親王家五十首　新古今集竟宴和歌　續古今集竟宴和歌
文治女御入内御屏風和歌　昭慶門院御屏風和歌

最勝四天王院名所障子和歌
宗尊親王三百首　為理卿七夕七十首　在民部卿家歌合　大江千里句題和歌　紀師匠家曲水宴和歌
延喜亭子院歌合　同陽成院歌合　同亭子院有心無心歌合　寛平中宮歌合
天徳内裏歌合　天延堀川中納言家歌合　同亭子院有心無心歌合　長元大納言家歌合
同陽成院水閣歌合　長暦源大納言家歌合　長久弘徽殿女御歌合　永承禎子内親王家歌合
天喜皇后宮春秋歌合　治暦定綱朝臣家歌合　同禖子内親王家歌合　同親王家歌合
同呂保殿歌合　延久氣多宮歌合　承保禁書守有綱家歌合　承暦内裏歌合
應徳若狭守通宗朝臣女子達歌合　寛治高陽院歌合　永長東塔東谷歌合
天仁山家五番歌合　長治源廣綱家歌合　永久條宰相家歌合　元永内大臣家歌合
同内大臣家歌合　保安関白内大臣家歌合　大治花林院歌合　同西宮歌合
同南宮歌合　同住吉社歌合　長承中宮亮顕輔家歌合　久安家成卿家歌合
永暦清輔朝臣家歌合　永万重家朝臣家歌合　仁安経盛朝臣家歌合　嘉應実國卿家歌合

同住吉社歌合
安元右大臣家歌合
建久若宮社歌合
建仁老若歌合
同鳥羽城南寺影供歌合
同補宮若宮撰歌合
同別雷社歌合
建保禁裏歌合
同六月十一日歌合
同四月廿日歌合
同十月四日歌合
貞永摂政家歌合
同建春門院北面歌合
承安廣田社歌合
同廿二番歌合
正治御室撰歌合
同影供歌合
同恋十五首歌合
建永卿相侍臣歌合
同十三夜歌合
同九月盡日歌合
同八月廿二日歌合
同前関白家歌合
同月十二日歌合
嘉禎遠島御歌合
治承賀茂社歌合
同右大臣家歌合
同仙洞十人歌合
同院撰歌合
同櫻宮歌合
同賀茂御祖社歌合
同仙洞歌合
同四十五番歌合
同月廿四日歌合
同四十番歌合
寛喜石清水若宮歌合
寛元河合社歌合
同新羅社歌合
同二月十一日歌合
同名所月歌合

宝治院歌合
建治摂政家歌合
正安伊勢新名所歌合
嘉元永福門院歌合
天授五百番歌合
康正内裏歌合
同廿一番歌合
同殿中十五番歌合
同秋十五番歌合
一條大納言家歌合
播磨守兼房家歌合
山家三番歌合
建長影供歌合
正應廿番歌合
同當座歌合
同十八番歌合
應永内裏歌合
文明親長卿家歌合
同九月盡歌合
文龜卅六番歌合
文禄後陽成院歌合
西國受領歌合
禁中内親王家當夜歌合
國信卿家歌合
文永八月十五夜歌合
永仁八月十五夜歌合
乾元仙洞歌合
元亨外宮北御門歌合
宝徳仙洞歌合
同江戸歌合
同将軍家歌合
大永蜷川親孝家歌合
近江御息所歌合
紅平大貳家歌合
櫻子内親王家當夜歌合
雲居寺結縁經後宴歌合
同龜山殿歌合
同當座卅番歌合
同五月四日歌合
貞治新玉津島歌合
同百番歌合
同七月七日七首歌合
同十五番歌合
永禄八月十五夜三首歌合
源順馬毛名歌合
源大納言師房卿家歌合
同夏歌合
為兼卿家歌合

頓阿判卅番歌合
前十五番歌合
定家三條卅番歌合
御裳濯河歌合
後京極殿御自歌合
隆祐朝臣自歌合
道堅法師自歌合
元久詩歌合
守遍詩歌合
寛平菊合
東三條院撫子合
圓融院扇合
三番何曽合
後宗光院御集 称沙玉集
西宮左大臣御集
家持卿集
師氏卿集
俊忠卿集
資賢卿集
為和卿集
輔親卿集
頼政卿集
源宗于朝臣集
紀友則集
顕昭陳状
元良親王御集
鎌倉右大臣御集
兼輔卿集
朝光卿集
雅兼卿集
長方卿集
言継卿集
行宗卿集
紀貫之集
源公忠朝臣集
坂上是則集
蓮性陳状
宗尊親王御集 称瓊玉集
常徳院御集
敦忠卿集
公任卿集
成通卿集
為重卿集
雅経卿集 称明日香井集
頼季卿集
在原業平朝臣集
大中臣頼基朝臣集
藤原清正集
土御門院御集
宗良親王御集 称李花集
人麿卿集
朝忠卿集
定頼卿集
實國卿集
為廣卿集 称清玉集
雅有卿集 称磯女集
顕輔卿集
藤原敦行朝臣集
猿丸大夫集
藤原元真集
公武歌合
後十五番歌合
建長閑窓歌合
宮河歌合
後鳥羽院御自歌合
永福門院御自歌合
豊原統秋自歌合
建保詩歌合
文安詩歌合
上東門院菊合
後冷泉院根合
堀川院艶書合
三廣判地下歌合
新時代不同歌合
女房卅六人歌合
知家卿自歌合
家隆卿自歌合
亮尊法印自歌合
細川高国朝臣自歌合
康永詩歌合
同将軍家詩歌合
康保内裏前栽合
仲実朝臣女子根合
五番何曽合

源信明朝臣集　藤原義孝集
大中臣能宣朝臣集　清原元輔集
藤原高光集　藤原相如集
源兼澄集　源道濟集
源賴實集　津守國基集
菅原在良朝臣集　藤原基俊集
源有房朝臣集　平忠度朝臣集
藤原隆信朝臣集　藤原隆祐朝臣集
平常緣集　源資持集 林葛京集
凡河内躬恒集　壬生忠峯集
曽根好忠集 林曽丹集　藤原興風集
遍昭僧正集　櫻井基佐集
源賢法師集

藤原仲文集　源順集
平兼盛集　藤原実方朝臣集
源重之集　藤原長能集
橘為仲朝臣集　藤原顯綱朝臣集
源俊賢朝臣集 称歌木集　藤原為忠朝臣集
藤原清輔朝臣集　源師光集
惟宗廣言集　鴨長明集
藤原光經集　源高範集
源真朝集 称柱林集　山邊赤人集
壬生忠見集
覚性法親王御集 称出観集　守覚法親王御集
夢窓國師集　慶運法印集

素性法師集　安法法師集
俊惠法師集 称林葉集　寂蓮法師集
元可法師集　嘉喜門院御集
經信卿母集　小野小町集
本院侍從集　馬内侍集
中務集　小大君集
紫式部集　相模集 称玉藻州
伊勢大輔集　辨乳母集
堀河院宮内親王家紀伊集　二條大皇太后宮大貳集
二條院讃岐集　建礼門院右京大夫集
晴御會部類記　貞治六年中殿御會記 称雲井花
柿本朝臣人丸勘文　柿本影供記

惠慶法師集
寂然法師集
宗祇法師集
俊成卿女集
小馬命婦集
賀茂保憲女集
和泉式部集
康資王母集
小侍從集
貞治六年中殿御會記
柿本講式

兼好法師集
齋宮女御集
檜垣嫗集
伊勢集
清少納言集
赤染衛門集
出羽辨集
待賢門院堀川集
中殿御會部類記
柿本朝臣人丸勘文

柿本寺人丸像彩色切箔進帳

管家萬葉集　古今和歌集目録　古今集童蒙抄
僻案抄　三代集間事　顯昭古今集序註
歌木集　藏玉和歌集　拾遺抄註
夜鶴抄一名河佛傳　愚問賢註　悦目抄
歌仙落書　續歌仙落書　近来風體抄
為衆為世両卿訴陳状　長明無名抄　俊成卿正治奏状
了後辨要抄　落書露顯　井蛙眼目
兼載雜談　西公談抄　徹書記物語
愚秘抄　桐火桶

卷第三百三至卷第三百六　連歌部　四卷

菟久波問答　吾妻問答　さゝめごと
花の考依玖　若州山　連歌本式

漢和法式

卷第三百七至卷第三百十九　物語部　十三卷

伊勢物語　朱雀院塗籠御本　大和物語
住吉物語　秋夜長物語　鳥部山物語
無名草子　物語百番歌合　源氏狹衣歌合
源氏心久良遣　伊勢物語知見抄　源氏物語奥入
原中最秘抄　弘安源氏論義　仙源抄
雨夜談抄

卷第三百二十至卷第三百二十六　日記部　七卷

和泉式部日記　紫式部日記　讃岐典侍日記
中務内侍日記　兎苓日記　玄與日記
紀行部　十四卷　辨内侍日記　宗長手記

卷第三百二十七至卷第三百四十

土佐日記　盧主
後鳥羽院熊野御幸記　源光行海道記
源親行紀行　轉寢記
小島乃口須佐之男宝篋院殿住吉詣記
奈良斜光草　伊勢紀行
富士御覧記　善光寺紀行
西廣日記　平安紀行
廻國雜記　道遠院殿高野參詣記
長嘯子九州道記　導海僧正紀行
蒲生氏鄉紀行　宗長東路乃津守
卷第三百四十一至卷第三百五十二　管絃部　十二卷
管絃音義　五重十操記
龍鳴抄　懷竹抄

富士歷覽記　藤川記
北國紀行　玄旨法印九州道記
玄旨法印東國陣道記
東國紀行

高倉院嚴島御幸記
都乃津登
鹿苑院殿嚴嶋詣記
覽富士記

胡琴教録　舞樂要録
夜鶴庭訓抄　殘夜抄
秦箏血脉　琵琶血脉
東遊歌　風俗歌
新撰朗詠集　梁塵秘抄口傳集
卷第三百五十三至卷第三百五十五　雜秘別録
承元御鞠記　貞治二年御鞠記
成道卿口傳　鹿鞠略記
卷第三百五十六至卷第三百五十七　舞曲口傳
新修鷹經　嵯峨野物語　木師抄
後京極殿鷹三百首　定家卿鷹三百首　八音抄
西園寺殿鷹百首　根津松鷗軒記　催馬樂註秘抄

鹿鞠部　三卷
享德二年晴御鞠記　後鳥羽院御記
鹿鞠肝要抄　遊庭秘抄

鷹部　二卷
白鷹記　養鷹記
慈鎮和尚鷹百首　定家卿鷹百首

卷第三百五十八至卷第三百六十三　遊戲部　六卷

薰集類抄　後伏見院宸翰薰物方　無久佐濃多称
五月雨日記　志野宗信家名香合名香目録　圍碁口傳
圍碁式　仙傳抄　御飾記
作庭記　洛陽田樂記　君碁觀左右帳記
同勸進申樂記　栗田口猿樂記　文安田樂能記
乱河原勸進猿樂日記

卷第三百六十四至卷第三百六十八　飲食部　五卷

厨事類記　世俗立要集殘缺　四條流庖丁書　武家調味故實
大草預料理書　庖丁聞書　大草相傳聞書　喫茶養生記
喫茶往來　酒茶論　亭子院給酒記　酒食論
北野大茶湯記

卷第三百六十九至卷第三百九十九　合戰部　三十卷

將門記　純友追討記　陸奥話記　後三年合戰記
承久記　梅松論　伯耆卷　明德記
應永記一名大内義弘退治記　嘉吉記　長禄寛正記
文正記　應仁記　應仁略記　應仁別記
永禄記　豊鑑　細川両家記一名二川分流記
大和記　勢州四家記　鎌倉大草紙　関東兵乱記
結城戰場物語　永享記　豆相記　河越記
深谷記　鵠臺前記　房總治乱記
鹿島治乱記　江濃記　舟田乱記
箕輪記　蘆名記　蒲生氏鄉記　伊達成実記
柴田退治記　冨樫記　荒山合戰記
赤松記　小松記　別所長治記
赤松再興記

大內義隆記　中國治亂記　三好別記
十河物語　豫章記
難太平記　上月記
吉野事書案　阿蘇惟澄申狀
豊臣太閤御事書　沙弥洞然長狀
卷第四百至卷第四百二十四　武家部　二十五卷
負永式目　負永式目追加　建武式目　建武式目追加
侍所沙汰篇　政所壁書　大內家壁書　北條早雲廿一箇條
武田信玄百箇條　朝倉敏景十七箇條　長曾我部元親百箇條　鹿苑院殿御元服記
普廣院殿御元服記　光源院殿御元服記　常德院殿御乘馬始記
宝篋院殿將軍宣下記　普廣院殿任大臣節會次第
同御拜賀次第　同大將御拜賀雜事　鹿苑院殿御直衣始記
長祿二年已後申次記　殿中申次記　正月御事始記
成氏朝臣年中行事　飯尾宅御成記　祇園會御見物御成記
伊勢亭御成記　三好亭御成記　前田亭御成記
文祿四年御成記　諸大名衆御成申入記　御供故實
走衆故實　大內問答　了俊大雙紙
宗五大雙紙　簗中舊記　嫁入記
嫁迎記　上臈名事　大的體拜記
流鏑馬次第　方量物　大追物目安
騎射秘抄　笠懸記　高忠聞書
家中竹馬記　八迴日記　狩詞記
空穗次第　土岐家聞書　軍陣聞書
築城記　隨兵日記　建治三年記
　　御産所日記

文明十一年記　六波羅下知
御隨身三上記　諸家紋帳
馬具寸法記

卷第四百二十五至卷第四百四十五　釋家部　二十一卷

釋家初例抄　釋家官班記　攝津親秀譲状　齋藤親基日記
加茂櫻會緣起　春日社三十講最初御願文　太神宮御相傳袈裟記　石清水不斷念佛緣起
後宇多院御灌頂記　承久三年七佛藥師御修法記　圓融院御授戒記　義貞記
同假字記　延德御八講記　後嵯峨院宸筆御八講記　武具要說

[illegible]の御法　雲井乃御法
[illegible]の御法　奥山乃御法
後光嚴院三十三回聖忌記
後土御門院十三回聖忌記　陽祿門院三十三回御忌記
仁和寺諸堂記　廣隆寺來由記　清水寺緣起　醍醐寺緣起
安樂光院記　楞伽寺記　勸修寺緣起　般舟三昧院記

南禪寺記　資聖禪寺造營記　東福紀年錄　萬壽禪寺記
鹿王院記　尊勝寺供養記　法勝寺供養記　無量壽院供養記
法成寺金堂供養記　同藥師堂供養記　東北院供養記　應德東寺塔供養記
建武元年東寺塔供養記　相國寺供養記　同塔供養記
大安寺伽藍緣起并流記資財帳　同寬平緣起　藥師寺緣起
東大寺大佛記　同造立供養記　同金銅記文　興福寺緣起
多武峰緣起　同略記　長谷寺緣起　當麻寺緣起
觀心寺緣起實錄帳　山門堂社記　九院佛閣抄
延曆中堂供養記　天元同供養記　弘安大講堂供養記
木下川藥師佛緣起　日光山中禪寺私記　筑前國聖福寺佛殿記
永平八年高野山燒失記　近江國金勝寺官符　佛牙舍利記
鹿王院如意宝珠記　二荒山十部會緣起　日光山二月會緣起　慈惠大僧正遺告

阿弥陀院宝物帳　観世音寺資財帳　左記
鶴岡執行珍祐法印記　發心和歌集　右記
巻第四百四十六至巻第五百三十　雑部　八十四巻
古語拾遺　日本霊異記
康平記　宇槐雑抄
永久元年記　醍醐寺雑事記
元弘元年叡山渡御記　新撰姓氏録
建武記　鳩嶺雑事記　大鏡裏書
後奈良院御記　御湯殿上日記　天慶二年記
賀茂院年代記　編記　諸道勘文残欠
長寛勘文　法曹類林　残欠　文保三年記
禁秘御抄　一名建暦御記　代始和抄　廟城書裏書
禁秘抄　名目抄　世俗浅深秘抄
類聚雑要抄　桃華蘂葉
三内口訣　大饗略次第
嘉禎二年六月大饗次第
十七箇條憲法　建暦二年新制廿一箇條　弘安礼節　二判問答
文時卿封事三箇條　寛平御遺誡　大饗御装束間事　大饗雑事
竹馬抄　小夜の寝覚　建長六年十二月大饗次第　澄柿
乳母の文　乳母卅紙　文明一統記　九條殿遺誡
清少納言枕草紙異本　隆房卿艶詞　身の形見　焦茶抄
肖柏夢庵記　同三愛記　長明方丈記　頓阿十楽庵記
同石山月見記　東光院殿嵯峨記　宗長宇都山記　称名院右府三塔巡礼記
さゝ衣　多武峰少将物語　尊朝法親王唐崎松記　玄旨法印夢想記
今物語　野守鏡　鳴門中将物語　時秋物語
吉野拾遺　江談抄

續古事談　東齋隨筆
真俗交談記　驢驢嘶餘
駮牛繪詞　國牛十圖
入木抄　仁和寺書籍目録
點圖部類　大和假名反切義解
中正子　出雲風土記
多氣密蜜　駿河風土記
康正二年造内裏段錢國役引付
三十六番職人歌合　七十一番職人歌合
永正狂歌合　常盤嫗物語
後奈良院御撰何曾　公武大體略記
紹運要略　立坊次第
大槻秘抄　梦のかよひの日記
門室有職抄　海人藻芥
伊行朝臣夜鶴抄　才葉抄（一名筆體抄）
信西藏書目録　文和仙洞御書目録
桂林遺芳抄　新撰字鏡
豊後風土記　對馬國貢銀記
安東郡專當沙汰文
東北院職人歌合　鶴岡放生會職人歌合
十二類歌合　調度歌合
精進魚類物語　柿本氏系圖
世諺問答　曆林問答
女官名字抄（一名貴女抄）　女院記

諡號雜記（一名船水知右）　曆名土代
文安年中御番帳　永禄六年諸役人附
東大寺奴婢籍帳　常樂記
相模國鎌倉松岡過去帳
同國田島村和光院過去帳
四條院御葬禮記　龜山院御葬礼記
後小松院崩御記　山乃露殿
新待賢門院七々忌御願文
鹿苑院殿位牌之辭
總見院殿追善記　朝乃雲
吉事次第　吉事畧儀
文保記　永正記

御評定着座次第　永享以來御番帳
長享元年江州御動座在陣衆着列
近江國番場宿蓮華寺過去帳
常陸國六段田村六地藏寺過去帳
類聚雜例　高倉院昇遐記
伏見院御中陰記　後光嚴院御佛事記
山賊記　後奈良院御拾骨記
鹿苑院殿薨葬記　同追善記
常德院殿薨逝記　萬松院殿宂太記
宇奈比松　宗祇終焉記
贈官位宣旨記　諸陵雜事
觸穢考　婚記

女御産部類記　中宮御産部類記　治承二年中宮御産記　春華門院御百日記
延慶四年新院姫宮御行始記　北山女院御入内記　安元御賀記
後成卿九十賀記　榮花院右府七十賀記　清輔朝臣尚歯會記

已上一千二百七十三部

○按ずるに本邦古來書籍の大部なるものは滋野貞主の秘府略千巻乃至それに次ぐは藤原敦基の柱下類林三百六十巻藤原通憲の法曹類林二百三十巻等なり其書いづれも早く亡びて世に伝はらず國史ある中に涼和天皇の天長八年東宮學士滋野貞主諸儒に古今の書籍を撰集せしめ類次して相従ふ一千巻ばかり秘府略と名づく今塙氏集むる所の書すでに一千二百七十餘部あり而して秘府略は千歳の今日に至りて此盛挙あることを聞かず且つ類従の二字は恐らくは誤にて纂輯ならんか此書もまた必ずしも秘府略に限らず續日本後紀續後紀文徳實録等の如きも亦皆類従の書なるべし今此書に於いて一千部のあるべきを見て其門人某氏をのづからなり

天保五甲午年春三月廿七日以大石氏家藏本抄録之　中村萬喜直衛

備考　本書百二十三丁